

昭和 43 年 度

地力保全基本調査成績書

〔美幌地域・津別町〕

北海道立中央農業試験場

9

序

現状における土地生産力は諸種の土壌的阻害要因によつて十分にその地力を発揚できない場合が少くないのみならず、一方では剥脱要因もあつてその地力は消耗低下しつゝある。従つてこれら阻害要因を排除して合理的かつ適切な地力保全の対策を推進し、もつて当面の農業構造改善の基盤整備に資するため、昭和34年より農林省農政局の助成を得て基本的土壌調査分類を実施している。

本調査成績書は昭和43年度に行つた12地域20市町村をとりまとめたもので、こゝにこれを公表し営農安定の資に供する次第である。

現地調査の遂行に際して御協力を得た関係市町村、農業協同組合ならびに農業改良普及所の関係各位に対して、深く感謝の意を表する。

昭和44年3月

北海道立中央農業試験場

和田忠雄

調査並びに取まとめ方法

本調査は、凡そ100ha以上の集団になつている農耕地および付帯地を調査対象とし、調査および取まとめに当つては、夫々下記の資料に基づいた。

1. 土壤断面調査および現地での営農状況は地力保全対策資料第6号（昭和36年9月、農林省振興局農産課）によつた。
2. 土壤統および区の設定並びに土壤生産力可能性等級基準は、地力保全対策資料第12号（昭和40年3月、農林省農政局農産課）及び水田土壤統設定第1次案（昭和38年12月、農技研化学部土壤第3課）による。

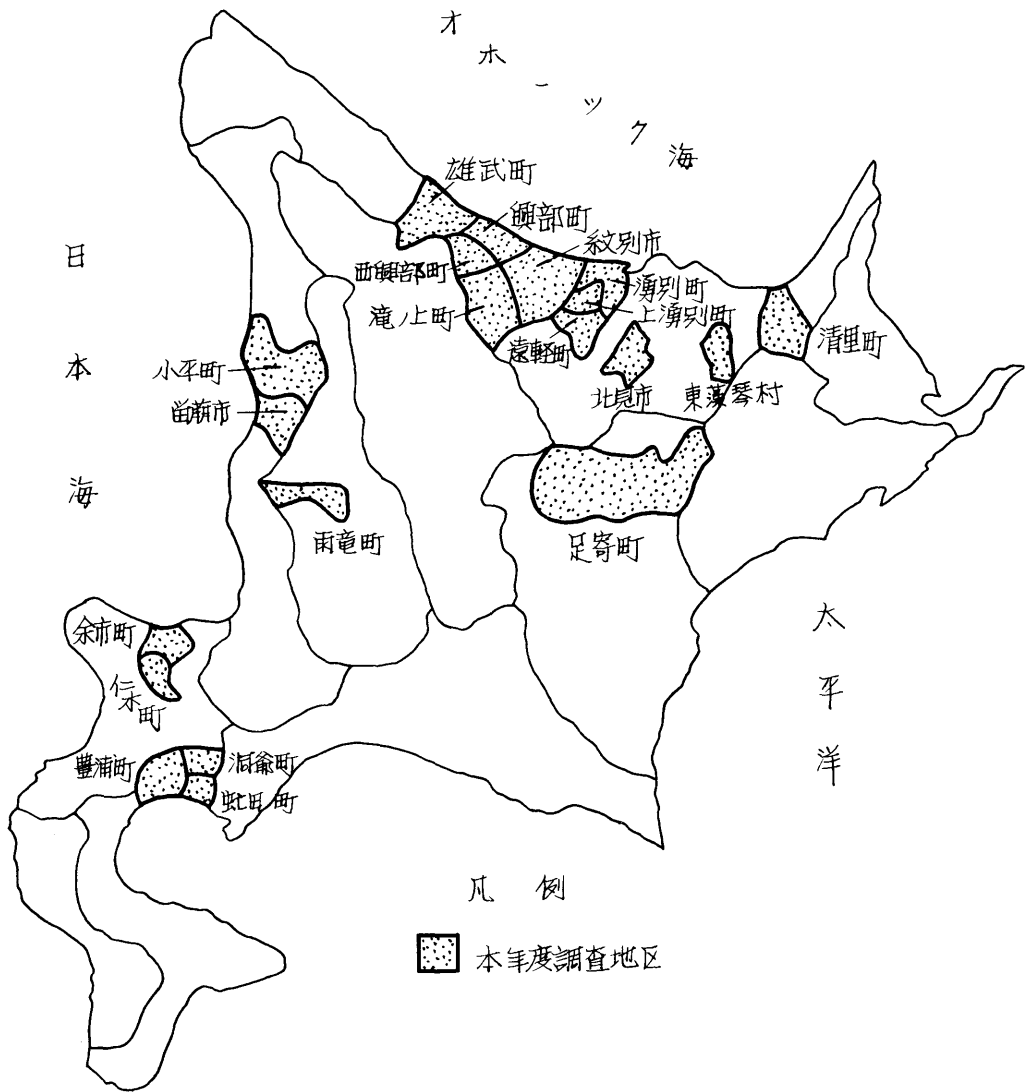
土壤統および土壤区の設定に当つては、北海道農業試験場農芸化学部土壤第1研究室の土性図を参照した。

化 学 部	部 長	長 谷 部 俊 雄
土 壤 改 良 科	科 長	後 藤 計 二
”	第 1 係 長	小 林 荘 司
”	研 究 職 員	水 元 秀 彰
	”	伊 東 輝 行
	”	木 村 清
	”	松 原 一 実
	”	坂 本 宜 崇
		（ 現 在 ・ 天 北 農 試 ）
	第 2 係 長	大 垣 昭 一
	研 究 職 員	小 林 茂
	”	宮 脇 忠
	”	山 本 晴 雄
	”	高 橋 市 十 郎
	”	上 坂 晶 司
	第 3 係 長	高 尾 欽 弥
十 勝 農 試		
土 壤 肥 料 科	研 究 職 員	菊 地 晃 二
	”	関 谷 長 昭
北 見 農 試		
土 壤 肥 料 科	研 究 職 員	秋 山 喜 三 郎

1. 調査地域一覽

調査地域名	該 当 郡 市 町 村 名	農 地 面 積 (調査対象面積) (ha)		既 調 査 面 積 (ha)		本 年 度 調 査 面 積 (ha)	
		水 田	畑	水 田	畑	水 田	畑
北 見	北 見 市	2,497	9,935	-	-	2,497	9,935
丸瀬布・遠 軽	遠 軽 町	460	3,172	-	-	460	3,172
	湧 別 町	329	5,083	-	-	329	5,083
	上 湧 別 町	480	2,962	-	-	480	2,962
紋 別	紋 別 市	68	6,468	-	-	68	6,468
	興 部 町	2	2,943	-	-	2	2,943
	西 興 部 町	-	1,487	-	-	-	1,487
枝幸・雄武	雄 武 町	-	2,794	-	-	-	2,794
滝ノ上	滝ノ上町	522	3,960	-	-	522	3,960
斜 里	清 里 町	1	7,028	-	-	1	7,028
網走湖畔	東藻琴村	138	4,291	-	-	138	4,291
陸 別	足 寄 町	22	10,308	-	-	22	10,308
洞爺湖畔	豊 浦 町	225	2,324	-	1,000	-	1,324
	洞 爺 町	245	2,321	-	-	245	2,321
	虻 田 町	68	1,411	-	-	68	1,411
樺 戸	雨 竜 町	2,482	760	-	-	2,482	760
留 萌	留 萌 市	1,067	792	-	-	1,067	792
	小 平 町	1,505	925	-	-	1,505	925
後志北部	余 市 町	698	2,060	-	-	698	2,060
	仁 木 町	885	1,053	-	-	885	1,053
合 計		11,685	72,077	-	1,000	11,685	71,077

調査地区位置図



美幌地域 津別町

1 地区の概況

1) 位置及び調査面積

- (1) 位置 網走支庁管内 網走郡津別町
 (2) 調査面積

郡市町村名	農地総面積 (ha)				調査対象面積 (ha)			
	水田	普通畑	樹園地	計	水田	普通畑	樹園地	計
網走郡津別町	199	5,805	-	6,004	199	5,805	-	6,004

過年度調査面積 (ha)				本年度調査面積 (ha)				次年度以降調査面積 (ha)			
水田	普通畑	樹園地	計	水田	普通畑	樹園地	計	水田	普通畑	樹園地	計
-	1,500	-	1,500	199	4,305	-	4,504	-	-	-	-

2) 気候

本町は北見内陸地域に位置し、内陸の気候を呈し、農耕期間を通じ、比較的冷涼で雨量も少ない。一方春期は阿寒山系に近接する関係上、山間地域では農耕作業開始も遅れる。夏期にはオホーツク海高気圧の影響を受け、しばしば低温に見まわれる。秋期は山間地域では初霜が早い。

項目		月別								
		4	5	6	7	8	9	10	11	
気温 (°C)	平均	4.9	11.3	15.9	20.0	21.5	16.5	10.1	3.1	
	最高平均	11.1	19.1	23.2	26.2	27.7	22.9	17.2	9.2	
	最低平均	-1.3	3.4	8.5	13.7	15.2	10.1	3.0	-3.1	
降水量 (mm)	平均	60.0	31.8	81.5	63.0	93.0	69.2	48.2	63.0	
湿度 (%)		73	77	84	88	87	83	77	72	
暴風速 (m/s)		4.6	4.3	3.1	2.7	2.9	3.7	4.1	4.6	
日照時間 (時)		196.7	191.1	198.6	191.7	199.7	198.6	179.2	133.6	

晩霜 5月10日、初霜 10月1日、晩雪 4月10日、初雪 11月1日

※は網走気象台観測による。

3) 土地条件

(1) 地形

本町の地形について見ると東南～南部は阿寒、屈斜路両カルデラの外輪山の山地で、南西～西部は先白亜紀層、三紀層の500m内外の起伏の激しい山地よりなる。これらにとりこまれた中央部は200～400mの第三紀層の丘陵性山地であるが、網走川本流に沿った中央地域は第四紀の火山碎屑物で構成される比較的平坦な丘陵が発達している。これらの丘陵性山地は北部ほど低く、北部地域では200～300mの起伏にとんだ丘陵性台地となっている。丘陵性台地は傾斜地が多い。山地及び丘陵性山地を解析して網走川が北上しているが、津別市街付近で扇状に支流をひろげ、本流域及

びその支流域では段丘、平坦地が形成されている。又網走川本流附近では2段の段丘が形成されている。農耕地は網走川及び支流域の平地、段丘、丘陵性台地が大部分を占めている。

(2) 地質

網走川及びその支流域に沿い凝灰岩を母材とする洪積土壌、砂岩、凝灰岩等を母材とする沖積土壌(河成)が分布し、又一部扇状堆土も分布する。又網走川右岸にひろがる丘陵性台地は洪積世に堆積したと思われる熔結凝灰岩(軽石質火山灰)よりなり、山地には砂岩を母岩とする残積土壌が分布する。

段丘及び平坦地には雌阿寒岳火山灰a層(以下Me-aと略記)、雌阿寒岳火山灰b層?(以下Me-b?と略記)の2層の新期火山灰の薄層が堆積しているが、新しい沖積土では火山灰層はない。

(3) 侵蝕状況

山間に存在する畑地は侵蝕が甚だしく、傾斜地では表土の削剥が多い。又軽石質火山灰は耐侵蝕性が乏しいため、侵蝕が大きく、波状地形を呈する。

(4) 交通状況

津別市街より各方面には比較的良好な道路が通じているが、活汲より東岡部落に通ずる道路は途中侵蝕のため不通箇所があつて交通はやゝ不便である。全般に交通は便利であるが、傾斜地の農道は整備されておらず不便である。

4) 土地利用及び営農状況

a) 経営面積(1戸当平均ha)

総面積	水田	普通畑	樹園地	その他
	0.20	6.32	-	-

b) 作付面積(1戸当平均ha)

作物	菜豆	てん菜	小豆	大豆	えん麦	えん豆	小麦	飼料作物	水稲
面積	1.38	1.07	0.70	0.50	0.47	0.27	0.30	0.80	0.20

c) 家畜の種類及び頭数

	馬	乳牛	豚	綿羊	鶏
飼育頭数	825	1,620	220	365	13,626
1戸当平均飼育頭数	1.0	1.9	0.26	0.4	15.0

d) 農用機械の状況

動力耕耘機	92台
農用トラクター	45台
農用トラック	154台
農用オート三輪	8台

e) 規模別専業、兼業農家戸数

	総 数	専 業	兼 業
0.1～ 0.99 ha	89	2	87
1.0～ 2.99	62	10	52
3.0～ 4.99	127	63	64
5.0～ 9.99	423	320	103
10.0～19.99	143	126	17
20.0以上	1	1	-
計	845	522	323

本町の農業は畑が大部分を占め、水田は僅かである。従つて畑作経営が主体で酪農経営の割合は低い。経営面積は専業農家では5～20haが多いが、兼業農家では5ha以下が多く、農業状況も不安定である。作物は豆類、てん菜、麦類、飼料作物が主である。農業の機械化は遅れ気味である。

2 土 壤 類 型 区 分 及 び 説 明

1) 土 壤 統 一 覧 及 び 土 壤 区 一 覧

(畑)

土 壤 統 名	色 層 序	腐 植 層 序	礫層、砂礫層、礫を混在する砂層	酸 化 沈 積 物	土 性		母 材、堆 積 様 式
					表 土	次 層	
本 岐	YR/YR	表層腐植層	あ り	なし	壤 質	壤 質	固結水成岩 残 積
大 高 台	YR/YR	"	な し	なし	壤 質	砂 質	非固結火成岩 残 積
東 岡	YR/YR	"	"	"	砂 質	壤 質	" 洪 積
高台段丘	YE/YR	"	"	"	粘 質	壤 質	非固結水成岩 洪 積
活汲 "	YR/YR	"	"	"	粘 質	粘 質	" "
東 達 美	YR/YR	"	あ り	"	"	"	非固結火成岩 風積 非固結水成岩 洪積
岩 富	YR/YR	"	な し	"	強粘質	強粘質	" " 水積
木 樋	YR/YR	"	あ り	"	粘 質	"	" " 水積
相 生	YR/YR	"	"	あり	壤 質	砂 質	" 非固結火成岩 水積
達 美	YR/YR	表層腐植層なし	"	なし	粘 質	"	非固結水成岩 水積
恩 根	YR/Y	"	な し	あり	"	強粘質	" 水積
最 上	YR/YR	"	あ り	なし	"	粘 質	" 水積

土壌統名	色層序	腐植層序	礫層、砂礫層、礫を混在する砂層	酸化沈積物	土性		母材、堆積様式
					表土	次層	
共和	YR/YR	表層腐植層	なし	あり	壤質	砂質	非固結火成岩・風積 非固結水成岩・洪積
美都	YR/Y	"	"	なし	粘質	"	非固結水成岩・水積
西達美	YR/Y	表層多腐植層	なし	あり	"	"	非固結火成岩・風積 非固結水成岩・水積
活汲沢	YR/Y	表層腐植層なし	あり	あり	砂質	"	"
大昭	YR/Y	"	なし	あり	粘質	壤質	"
東岡南	YR/YR	表層腐植層	あり	なし	壤質	"	非固結火成岩・崩積 非固結水成岩
達美扇状	YR/YR	"	"	"	粘質	礫質	非固結水成岩・水積 (扇状堆土)
二又	YR/YR	表層腐植層なし	"	"	強粘質	強粘質	変成岩 非固結水成岩 (")
恩根沢	YR/YR	表層腐植層	なし	"	壤質	壤質	非固結火成岩 非固結水成岩 風積水 (扇状堆土)
活汲扇状	YR/YR	"	"	あり	粘質	"	非固結水成岩・水積 (扇状堆土)
津別	YR/Y	表層多腐植層	"	"	強粘質	砂質	非固結水成岩 風積集積

(2) 土壌区一覽

土壌区名	簡略分級式	畑面積 (ha)	農牧適 地面積 (ha)	土壌区名	簡略分級式	畑面積 (ha)	農牧適 地面積 (ha)
本岐-本岐	III d s e l l t g p (w) n	272	604	共和-共和	III l l t d w f n	589	1,309
大高台-大高台	III s e l l t d p f n	1,806	4,014	美都-美都	II t d w f	161	353
東岡-東岡	III n s e l l t d	326	725	西達美-西達美	II t d p w f	35	75
高台段丘-高台段丘	I t f n	265	331	活汲沢-活汲沢	III d w i l l t	67	146
活汲段丘-活汲段丘	I t d	270	337	大昭-大昭	I t d w f	57	124
東達美-東達美	I d	347	434	東岡南-東岡南	III s e l l t d g p n	77	170
岩富-岩富	I t d	114	143	達美扇状-達美扇状	II t d g p (w) i s	127	283

土壌区名	簡略分級式	畑面積 (ha)	農牧適 地面積 (ha)	土壌区名	簡略分級式	畑面積 (ha)	農牧適 地面積 (ha)
木 種一 種	II tdp	332	738	二 又一 二 又	III d p i s II t g (w) e	39	84
相 生一 相 生	II tdf	53	116	恩根沢一 恩根沢	II tds	271	603
達 美一 達 美	II tdp	552	690	活汲扇状一 活汲扇状	III d i II t g p w n	80	100
恩 根一 恩 根	II tdpw	77	170	津 別一 津 別	III p w II t d f n a	20	40
最 上 最 上	III d i II t g (w)	67	146				

2) 土壌統別説明

本 岐 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm内外で腐植含量12.5%内外、土性はLが主である。色は10YRで彩度2、明度2、腐朽中礫を含む。細粒状構造で発達程度は弱度のものが多い。ち密度は粗、PH(H₂O)6.2前後、下層との境界は波状漸変である。

第2層は厚さ30cm内外で腐植含量3.0%内外、土性はCLが主である。色は10YRで彩度2、明度4のものが多い。固結水成岩の細中角礫に頼る富む。粒状構造で発達程度は中度である。ち密度は粗、PH(H₂O)4.8前後、下層との境界は波状明瞭である。

第3層は地表下概ね45cm以下で、腐植を欠き、未風化中角礫からなる礫層である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 網走郡津別町布川 試坑 津3

第1層	0~15cm	腐植に富む黒褐(10YR2/2)のL、未風化中角礫を含む。発達弱度の細粒状構造、ち密度は疎、PH(H ₂ O)6.2、調査時の湿り乾、境界波状漸変
第2層	15~45cm	腐植を含む黄褐灰(10YR4/2)のCL、未風化中角礫に頼る富む、発達中度の粒状構造、ち密度は疎、PH(H ₂ O)4.8、調査時の湿り乾、境界波状明瞭
第3層	45cm~	未風化中角礫よりなる母岩礫層

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~15	3.8	-	-	-	-	9.1			2.4	7.3	0.41	18	12.5
2	15~45	4.3	-	-	-	-	15.0			2.6	1.7	0.15	12	3.0

層位	PH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換容 量 me/100g	置換性塩基 me/100g				塩基飽和度 %	磷酸吸 収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O				
1	6.2	5.8	0.1	32.2	24.24	1.39	-	-	80	956	
2	4.8	3.7	2.0	25.7	10.73	3.66	-	-	58	729	

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては大高台統、木樋統、達美統、達美扇状統があるが、夫々母材、堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 固結水成岩

A-4 堆積様式 残積

B 地形 標高 200~400m の丘陵地

C 気候

気候は一般に冷涼で夏期にはしばしばオホーツク海高気圧の影響を受けて、低温に見まわれ、冷害を受けることがある。又山間地域では初霜も早い。

年平均気温 6.7℃ 年間降水量 706.8mm

D 植生及び利用状況

耕地には麦類、豆類、てん菜の外に牧草などが栽培されている。

E 農業上の留意事項

傾斜地が多いので水蝕防止の対策が必要であろう。又水蝕によつて地力が減耗しているから有機物の施用、施肥量の増加が必要であろう。

F 分布 津別町布川、本岐、双葉、最上の丘陵地

調査及び記載責任者 秋山喜三郎(北海道立北見農業試験場)

年月日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
本岐-本岐	III d se ll t gp (w) fn

② 土壌区別説明

本 岐 一 本 岐

示 性 分 級 式 (畑)

土	表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵																							
生	効	表表表	透保湿	保固土	置	有微酸	有物	増地	自傾人	侵耐耐																					
産土	土土	土土	然	層分	換	有微酸	害理	冠す	斜為	水風																					
力	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の																					
可	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の																					
能	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の																					
性	厚	難	粘	沃	基	灰土里酸	害質	危	傾	傾																					
等	深	含	着	状	状	量	無	險	方	度																					
級	さ	量	湿	度	否	性	性	斜	斜	度																					
	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e																				
Ⅲ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	2	1	2	Ⅱ	2	2	Ⅱ	1	1	2	2	1	1	Ⅰ	1	1	Ⅰ	1	1	Ⅲ	3	-	-	Ⅲ	3	2	1
簡略分級式		ⅢⅡdseⅡtgp (w) fn																													

A 土壤区の特徴

この土壤区は本岐統に属する。表土の厚さは15cm内外でやゝ浅く、有効土層も45cmで浅い。表土は礫を含む、中粒質で、粘着性弱く耕起、碎土はやゝ困難である。保水性中庸、透水性良好で母岩礫層が浅いため一時的な過乾のおそれもある。

保肥力大、磷酸固定力小、土層の塩基状態は中庸で自然肥沃度は中庸である。作土の養分含量は中庸である。地形は傾斜地が多く水蝕が大である。

B 植生及び利用状況

大部分耕地として利用され、畑には麦類、豆類、てん菜の外に牧草が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

表土が浅く深耕が必要である。又地表に礫が多いところでは、除礫を要する。傾斜地であるので水蝕防止のための対策が必要であろう。

D 分布 津別町布川、本岐、双葉、最上の一部

記載責任者 秋山 喜三郎 (北海道立北見農業試験場)
日付 昭和44年3月31日

大 高 台 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15~20cmで腐植含量は5~9%、土性はLが主である。色は10YRで彩度1、明度3、細粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度15~18で疎、PH(H₂O) 6.1前後、下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ4~5cmで腐植を欠き、土性はSが主である。(触感)色は10YRで彩度4、明度7と彩度1、明度3との混合、単粒状構造である。ち密度は18で疎、下層との境界は平坦明瞭、本層と第一層は雌阿寒岳火山灰a層である。(以下Me-aと略記)

第3層は厚さ10cm内外で腐植含量5%前後、土性はCLが主である。色は7.5YRで彩度3、明度3、粒状構造で発達程度は中庸である。ち密度は20~22で中、PH(H₂O) 5.7前後、下層との境界は漸変する。

第4層は厚さ15cm内外で腐植含量は2~3%、土性はCLが主である。色は7.5YRで彩度4、明度4、粒状構造で発達程度は中度である。ち密度は20~21で中、PH(H₂O) 5.8前後、下層との境界は平坦明瞭。

第5層は厚さ20cm内外、腐植を欠き、土性はLが主である。色は10YRで彩度6、明度5、浮石、熔岩の小礫に富む、細塊状構造で発達程度は弱度である。ち密度は20~21で中、PH(H₂O) 6.1前後、下層との境界は漸変。

第6層は地表下概ね70cm以下で腐植を欠き、土性はSが主である。色は10YRで彩度4、明度7、浮石、熔岩の小礫に富む。単粒状構造でち密度は密である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 網走郡津別町大昭 試坑6B

第1層	0~19cm	腐植に富む黒褐(10YR3/1)のL、発達弱度の細粒状構造、ち密度16で疎、PH(H ₂ O) 6.1、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
第2層	19~23cm	腐植を欠く灰黄橙と黒褐(10YR7/4と3/1)のS、単粒状構造、ち密度18で疎、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
第3層	23~35cm	腐植に富む暗褐(7.5YR3/3)のCL、発達中度の粒状構造、ち密度21で中、PH(H ₂ O) 5.7、調査時の湿り半乾、境界漸変
第4層	35~50cm	腐植を含む褐(7.5YR4/4)のCL、発達中度の粒状構造、ち密度20で中、PH(H ₂ O) 5.8、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
第5層	50~70cm	腐植を欠く黄褐(10YR5/6)のL、浮石、熔岩の小礫に富む。発達弱度の細塊状構造、ち密度20で中、PH(H ₂ O) 6.1、調査時の湿り半乾、境界波状漸変
第6層	70cm~	腐植を欠く灰黄橙(10YR7/4)のS、浮石、熔岩の小礫に富む、単粒状構造調査時の湿り乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量重量 %	粒径組成 %				土性	現地容積重 ρ	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~19	9.0		2.5	43.3	44.2	10.1	L	65	2.65	5.80	0.51	10	9.0
3	23~35	6.6		8.0	43.8	29.9	18.3	CL	79	2.67	3.07	0.32	10	5.3
4	35~50	7.9		13.4	34.3	30.5	21.9	CL	94	2.89	1.51	0.20	8	2.6
5	50~70	4.0		33.4	33.4	21.1	12.1	L	—	3.03	0.35	0.04	9	0.6

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g				塩基飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O	Na ₂ O			
1	6.1	5.9	0.3	3.03	25.99	0.28	0.41	0.21	88	6.35	3.3
3	5.7	4.9	0.8	2.43	11.75	1.00	0.92	0.19	57	1.055	0.1
4	5.8	4.8	0.8	2.20	10.62	4.62	1.50	0.29	77	1.067	0.2
5	6.1	4.8	0.5	9.6	4.85	2.57	0.46	0.74	89	4.42	Tr

A-2 他の土壌統との関係

本土壌統に隣接する統としては高台段丘統、活汲段丘統、木樋統、達美統、恩根統、共和統、美都統、二又統、達美扇状統、恩根沢統があるが、高台段丘統、活汲段丘統、木樋統、美都統とは堆積様式が異なり、達美統、恩根統、共和統、活汲沢統、大昭統、二又統、達美扇状統、恩根沢統とは母材、堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩

A-4 堆積様式 残積

B 地形 波状性の丘陵地

C 気候

気候は一般に冷涼で夏期にはしばしばオホーツク海高気圧の影響を受けて、低温に見まれ、冷害を受けることがある。又山間地域では初霜も早い。

年平均気温 6.7℃ 年間降水量 706.8mm

D 植生及び利用状況

大部分耕地として利用され、豆類、てん菜、馬鈴薯、牧草等が栽培されているが、未耕地にはナラ、シナ、アカダモ、クルミ、イタヤ、エンジュなどの樹木が自生している。

E 農業上の留意事項

傾斜地であるから水蝕防止に留意する必要がある。又傾斜地の頂部では風蝕もあるのでその防止対策が必要であろう。

F 分布 津別町相生、二又、大昭、双葉、大高台の一部

調査及び記載責任者 秋山喜三郎(北海道立北見農業試験場)

年月日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壤区一覧

土壤区名	簡略分級式
大高台-大高台	IIIseUtdpfn

大 高 台 - 大 高 台

示 性 分 級 式 (細)

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	表 有 効 土 層 の 隙 深 さ	表 土 土 質 の 粘 土 着 性	表 土 土 質 の 乾 硬 性	土 質 の 透 水 性	土 質 の 保 水 性	土 質 の 湿 潤 性	土 質 の 肥 沃 性	土 質 の 固 定 力	土 質 の 塩 基 状 態	土 質 の 置 換 性	土 質 の 石 灰 含 量	土 質 の 微 酸 性	土 質 の 有 機 質 障 害	土 質 の 物 理 的 障 害	土 質 の 地 冠 水 の 危 険 度	土 質 の 傾 斜 方 向	土 質 の 人 為 侵 蝕 性	土 質 の 耐 風 蝕 性
	t d g p	w	f	n	i	a	s	e										
III	II II I II 2 I 2	I 1 1 1 II 1 2 2	II 1 2 2 II 1 2 2 1 1 1	I 1 1 I 1 1	III 3 --	III 3 2 2												
簡略分級式	IIIseUtdpfn																	

A 土壤区の特徴

この土壤区は大高台統に属する。表土の厚さは19cmで中庸、有効土層は70cm内外で中庸である。表土の土性は中粒質で粘性弱く耕起、砂土は容易である。保水性、透水性は中庸で過湿、過乾のおそれは少ない。

肥力は大、固定力はごく小～小、土層の塩基状態はやゝ良好で自然肥沃度は中庸。作土の養分含量は中庸で酸性を呈しないが下層土は不良であり、特に磷酸に欠乏している。特殊な障害性は存在しないが、土壤の耐侵蝕性が乏しいため水蝕の危険性は大である。

B 植生及び利用状況

大部分耕地として利用され、豆類、てん菜、馬鈴薯、牧草等が栽培されているが、未耕地にはナラ、シナ、アカダモ、クルミ、イタヤ、エンジュなどの樹木が自生している。

C 地力保全上の問題点

腐植含量は高いが、軽石を母材とする土壤のため地力は低く、瘠薄化されやすいので有機物の補給や牧草栽培により、地力培養に努めることが必要であろう。又施肥量もやゝ多目に施用することも必要であろう。傾斜地が多いので等高線栽培、被覆作物栽培、緑作帯の設置による水蝕防止に努める必要があろう。

記載責任者 秋山 喜三郎 (北海道立北見農業試験場)
日付 昭和44年3月31日

東 岡 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ17cm内外で腐植含量8%前後、土性はFSLが主である。色は10YRで彩度1、明度2、細塊状構造で発達程度は弱度である。ち密度15~18で疎、PH(H₂O)7.2前後、下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ13cm内外で腐植含量7%前後、土性はLが主である。色は10YRで彩度1、明度3、粒状構造で発達程度は中庸である。細小孔に富む。ち密度15~19で疎、PH(H₂O)5.9前後、下層との境界は漸変する。

第3層は厚さ20cm内外で腐植含量3%前後、土性はFSLが主である。色は10YRで彩度6、明度6、粒状構造で発達程度は中庸である。細小孔に富む。ち密度18~20で中、PH(H₂O)5.8前後、下層との境界は漸変する。

第4層は地表下概ね50cm以下で腐植を欠き、土性はLが主である。色は10YRで彩度6、明度5、塊状構造で発達程度は弱度である。細小孔を含む。ち密度23~25で中~密である、PH(H₂O)6.2前後

代表的断面形態

(所在地) 網走郡津別町東岡 試坑No津5

第1層	0~17cm	腐植に富む黒(10YR2/1)のFSL、発達弱度の細塊状構造、ち密度17で疎、PH(H ₂ O)7.2、調査時の湿り半乾、境界明瞭
第2層	17~30cm	腐植に富む黒褐(10YR3/1)のL、発達中度の粒状構造、ち密度17で疎、PH(H ₂ O)5.9、調査時の湿り乾、境界判然
第3層	30~50cm	腐植を含む明黄褐(10YR6/6)のFSL、発達中度の粒状構造、細小孔に富む、ち密度19で中、PH(H ₂ O)5.8、調査時の湿り乾、境界判然
第4層	50~	腐植を欠く黄褐(7.5YR5/6)のL、発達弱度の塊状構造、細小孔を含む、ち密度25で密、PH(H ₂ O)6.2、調査時の湿り半湿

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	疎含量 重量%	粒径組成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植率 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~17	8.1		14.3	42.9	35.8	7.0	FSL	67	2.30	4.87	0.51	10	8.4
2	17~30	12.5		11.9	50.5	33.6	4.0	L	74	2.35	4.41	0.41	11	7.6
3	30~50	11.4		10.3	55.7	25.3	8.7	FSL	84	2.50	1.97	0.20	10	3.4
4	50~	10.2		13.9	31.2	43.4	11.5	L	111	2.63	0.64	0.06	-	1.1

層位	pH		置換酸度 Y1	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g				塩基飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O	Na ₂ O			
1	7.2	6.7	0.3	35.03	39.66	1.75	1.88	0.14	124	1.287	1.0
2	5.9	5.4	0.5	36.13	21.00	0.75	1.65	0.32	66	1.818	0.5
3	5.8	5.1	0.5	26.97	14.00	1.75	1.49	0.80	67	1.779	0.2
4	6.2	5.4	0.3	17.84	11.83	0.83	0.51	0.97	79	781	0.1

A-2 他の土壌統との関係

本土壌統に隣接または類似する統としては大高台統、活汲段丘統、活汲沢統、東岡南統があるが、大高台統、活汲段丘統とは堆積様式が異なり、活汲沢統、東岡南統とは母材、堆積様式が異なるので本統とは区別される。

A-3 母材 非固結火成岩

A-4 堆積様式 洪積世堆積

B 地形 波状性の台地で標高は130~330mである。台地上の平坦な面が多い。

C 気候

気候は一般に冷涼で夏期にはしばしばオホーツク海高気圧の影響を受けて低温に見まれ、冷害を受けることがある。又山間地域では初霜も早い。

年平均気温 6.7℃ 年間降水量 706.8mm

D 植生及び利用状況

大部分が畑地として利用され、麦類、豆類、馬鈴薯、てん菜、デントコーン、牧草などが栽培されている。

E 農業上の留意事項

土壌の耐侵蝕性が弱いため、侵蝕防止に留意する必要がある。特に風蝕には留意が肝要であろう。

F 分布 津別町東岡の一部

調査及び記載責任者

秋山喜三郎 (北海道立北見農業試験場)

年月日

昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
東 岡 - 東 岡	III nse II t d

② 土 壤 区 別 説 明

東 岡 — 東 岡

示 性 分 級 式 (畑)

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	表 土 的 層 的 厚 深 量	有 効 土 質 的 障 害 無 性	表 土 的 層 的 厚 深 量	耕 起 容 易	土 質 的 障 害 無 性	透 水 性 良 好	保 水 性 良 好	濕 度 高	自 然 肥 沃 力 大	固 定 力 小	土 層 的 塩 基 状 態 良 好	養 分 含 量 高	置 換 性 強	有 機 質 含 量 高	微 酸 性	障 害 無 性	災 害 無 性	傾 斜 度 大	傾 斜 度 大	侵 蝕 性 強
t d g p	w	f	n	i	a	s	e													
II II I I 1 1 1	I 1 1 (2)	I 1 2 1	III 1 1 1 3 3 1	I 1 1	I 1 1	III 3 --	III 3 2 2													
簡略分級式 III nse II t d																				

A 土 壤 区 の 特 徴

この土壌区は東岡統に属する。表土の厚さは17cm内外で中庸、有効土層は70cm内外でやや浅い。表土は粗粒質で粘着性弱く耕起、碎土は容易である。保水性、透水性は良好で過湿、過乾のおそれは少ない。

保肥力大、固定力小、土層の塩基状態は良好で自然肥沃度は高い。作土の養分含量はやや高く、酸性を呈しない。磷酸含量は全般に低く、下層の養分は磷酸を除き比較的高い。銅欠乏症が見られる他は特殊の障害性は存在しない。地形は波状性台地を呈し風水蝕のおそれがある。

B 植 生 及 び 利 用 状 況

大部分畑地として利用され、麦類、豆類、馬鈴薯、てん菜、デントコーン、牧草などが栽培されている。

D 地 力 保 全 上 の 問 題 点

等高線栽培、牧草作付による水蝕防止及び防風林設置による風蝕防止に留意する必要がある。又地力の増強に努めることが必要であろう。その他麦類に銅欠乏症が見られるので、これらの作付時には硫酸銅 2~4 Kg/10a の施用が必要である。

D 分 布 津 別 町 東 岡 の 一 部

記載責任者 秋山 喜三郎 (北海道立北見農業試験場)
日付 昭和44年3月31日

高 台 段 丘 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ22cm内外で腐植含量6%前後、土性はCLが主である。色は7.5YRで彩度2、明度3、細塊状構造で発達程度は弱度である。ち密度10~18で疎である。PH(H₂O)6.6前後、下層との境界は明瞭である。本層には雌阿寒岳火山灰a層が混入していると思われるが識別は困難である。

第2層は厚さ15cm内外で腐植含量2%前後、土性はLが主である。色は7.5YRで彩度6、明度5、細小孔に富む。細塊状構造で発達程度は弱度である。ち密度15~18で疎、PH(H₂O)6.8前後、下層との境界は漸変である。

第3層は厚さ28cm内外で腐植を欠き、土性はCLが主である。色は7.5YRで彩度6、明度5、粒状構造で発達程度は中度である。細小孔に富む。ち密度20~22で中、PH(H₂O)6.0前後、下層との境界は明瞭である。

第4層は地表下概ね65cm以下で腐植を欠き、土性はSが主である。色は7.5YRで彩度6、明度5、彩度6、明度7、の互層になつている。浮石、熔岩の小礫(まれに中礫)を含む。単粒構造である。ち密19~22で中である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 網走郡津別町高台 試坑16津9

第1層	0~22cm	腐植に富む黒褐(7.5YR3/2)のCL、発達弱度の細塊状構造、ち密度14で疎、PH(H ₂ O)6.6、調査時の湿り乾、下層との境界は平坦明瞭である。
第2層	22~37cm	腐植を含む明褐(7.5YR5/6)のL、発達弱度の細塊状構造、細小孔に富む、ち密度17で疎、PH(H ₂ O)6.8、調査時の湿り乾、下層との境界は漸変する。
第3層	37~65cm	腐植を欠く明褐(7.5YR5/6)のCL、発達中度の粒状構造、細小孔に富む。ち密度21で中、PH(H ₂ O)6.0、調査時の湿り乾、下層との境界は明瞭である。
第4層	65~	腐植を欠く明橙褐と明褐(7.5YR7/6と5/6)のS、単粒状構造、浮石、熔岩の小礫を含む、ち密度20で中、調査時の湿り半湿

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫 含量 重量%	粒 径 組 成 %				土 性	現 地 容 積 重 g	真 比 重	全 炭 素 %	全 窒 素 %	炭 素 率	腐 植 %
				粗 砂	細 砂	シル ト	粘 土							
1	0~22	4.9		5.2	49.4	31.6	16.0	CL	86	2.36	3.77	0.34	11	6.5
2	22~37	8.5		9.2	50.0	28.1	12.6	L	95	2.62	1.33	0.19	7	2.3
3	37~65	6.7		18.3	37.6	28.7	15.4	CL	122	2.66	0.52	0.04	13	0.9

層位	PH		置換酸 度 Y1	塩基置換 容 量 me/100g	置換性塩基 me/100g				塩 基 飽 和 度 %	磷 酸 吸 収 係 数	有 降 態 磷 酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O	Na ₂ O			
1	-	6.6	0.3	25.12	25.66	0.49	0.91	0.16	108	794	2.0
2	6.8	5.0	0.5	17.32	10.75	0.75	0.93	0.61	75	1,477	Tr
3	6.0	5.2	0.3	14.42	10.28	2.28	0.31	0.84	92	618	"

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては東岡統、活汲段丘統、共和統、東達美統、美都統等があるが、東岡統とは堆積様式が異なり、活汲段丘統とは腐植含量、土壌構造等が異なる。共和統、東達美統は堆積様式、母材が異なり、美都統は堆積様式が異なるため本統と区別される。

A-3 母 材 非固結水成岩 (凝灰岩)

A-4 堆積様式 洪積世堆積 (河成)

B 地 形 ほぼ平坦な台地

C 気 候

気候は一般に冷涼で夏期にはしばしばオホーツク海高気圧の影響を受けて低温に見まわれ、冷害を受けることがある。又山間地域では初霜も早い。

年平均気温 6.7℃ 年間降水量 706.8mm

D 植生及び利用状況

耕地として利用され、豆類、麦類、てん菜、馬鈴薯等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

代表地点での腐植含量は多いが、部分的には腐植含量の少ないところもある。又母材は軽石質風化物が主であるため地力の減耗を来たしやすいので、常に地力培養に努める必要がある。

F 分 布 津別町高台の一部

調査及び記載責任者 秋 山 喜三郎 (北海道立北見農業試験場)

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
高台段丘-高台段丘	Htfn

② 土壤区別説明

高台段丘 — 高台段丘

示性分級式(畑)

土	表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵	
生	効	表表表	透保湿	保固土	置有微酸	有物	増地	自傾人	侵耐耐
産土	土	土土	然	層分	換" "効	害理	冠す	然斜為	水風
力	土	土の	の	の	性態量	害質障	水べり	の	蝕蝕
可	の	のの	の	の	石苦加磷	害質障	のの	傾傾	蝕蝕
能	の	粘土	水水潤肥肥定塩	の	灰土里酸	有害障	危危険	傾方	蝕蝕
性厚	の	土着硬乾	沃	基	含" "素度	無性	度度	斜向斜	度性性
等	深含	難性性	性性	力力態	量" "素度	無性	度度	斜向斜	度性性
級	さ	量易	湿	度	否	性	性	斜	蝕
	t d g p	w	f	n	i	a	s	e	
	II II I I I	2 1 1	I 1 1 (2)	II 2 2 1	II 1 2 1 3 1 1	I 1 1	I 1 1	I 1 --	I 1 1 1
簡略分級式		II t f n							

A 土壤区の特徴

この土壤区は高台段丘統に属する。表土の厚さは22cm内外で中庸、有効土層は1m内外で中庸である。表土は中粒質で粘着性は弱く耕起砕土は容易である。保水性、透水性中～良好で過湿、過乾のおそれは少ない。

保肥力中、磷酸固定力小で土層の塩基状態は良好であり、自然肥沃度は中庸である。作土の養分含量は概ね中庸に属するが、下層土は磷酸が欠乏している。特殊の障害性は存在しない。地形的に水蝕発生のおそれは少ない。

B 植生及び利用状況

大部分耕地として利用され、豆類、麦類、てん菜、馬鈴薯等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

土壤は瘠薄化しやすい軽石質風化物を母材とするので有機物の補給に努めて地力の培養を図る必要がある。また大型機械等による急激な深耕の場合は下層の磷酸固定力が大であるので、土壤改良資材として磷酸質肥料の投入が必要である。

D 分布 津別町高台の一部

記載責任者 秋山喜三郎(北海道立北見農業試験場)
日付 昭和44年3月31日

活 汲 段 丘 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ18cm内外で腐植含量6%前後、土性はCLが主である。色は7.5YRで彩度2、明度3、粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度10~15で疎、PH(H₂O)6.6前後、下層との境界は明瞭である。

第2層は厚さ12cm内外で腐植含量6%前後、土性はCLが主である。色は7.5YRで彩度2、明度2、粒状構造で発達程度は強度である。中~小孔に富む、PH(H₂O)6.2前後、ち密度22~24で中、下層との境界は判然である。

第3層は厚さ28cm内外で腐植含量2%前後、土性はLiCが主である。色は7.5YRで彩度4、明度5、粒状構造で発達程度は強度である。中~小孔に富む、腐植被膜あり、PH(H₂O)6.3前後、ち密度23~28で中~密、下層との境界は判然である。

第4層は厚さ17cm内外で腐植を欠く、土性はLiCが主である。色は7.5YRで彩度6、明度5、粒状構造で発達程度は中度である。中~小孔に富む。腐植被膜含む、PH(H₂O)6.3前後、ち密度22~26で中~密、下層との境界は明瞭である。

第5層は厚さ20cm内外で腐植を欠き、土性はSが主である。色は10YRで彩度2、明度2と彩度4、明度3、単粒状構造、ち密度は18~20で中、下層との境界は漸変である。

第6層は地表下概ね95cm以下で腐植を欠き、土性はSが主である。色は2.5Yで彩度2、明度8、単粒状構造、ち密度は中である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 網走郡津別町活汲二 試坑6津10

第1層	0~18cm	腐植に富む黒褐(7.5YR3/2)のCL、発達弱度の粒状構造、ち密度13で疎、PH(H ₂ O)6.6、調査時の湿り乾、下層との境界明瞭。
第2層	18~30cm	腐植に富む黒褐(7.5YR2/2)のCL、発達強度の粒状構造、中~小孔に富む。PH(H ₂ O)6.2、ち密度23で中、調査時の湿り半乾、下層との境界判然
第3層	30~58cm	腐植を含む灰褐(7.5YR5/4)のLiC、発達強度の粒状構造、中~小孔に富む。腐植被膜あり、PH(H ₂ O)6.3、ち密度25で密、調査時の湿り半乾、境界判然。
第4層	58~75cm	腐植を欠く明褐(7.5YR5/6)のLiC、発達中度の粒状構造、中~小孔に富む、腐植被膜含む、PH(H ₂ O)6.3、ち密度24で中、調査時の湿り半乾、境界明瞭。
第5層	75~95cm	腐植を欠く黒褐(10YR2/2)と暗褐(10YR3/4)のS、単粒状構造、ち密度19で疎、調査時の湿り半乾、境界漸変
第6層	95~	腐植を欠く淡黄灰(2.5Y8/2)のS、単粒状構造、ち密度中、調査時の湿り半乾

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成%				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~18	5.0		7.7	37.4	26.5	16.5	CL	82	2.39	3.89	0.42	9	6.7
2	18~30	9.1		6.7	35.3	37.7	20.3	CL	95	2.50	3.42	0.29	12	5.9
3	30~58	6.7		3.7	26.6	28.0	41.7	LiC	118	2.58	1.33	0.15	9	2.3
4	58~75	8.8		7.4	30.0	35.7	26.9	LiC	116	2.65	0.81	0.09		1.4

層位	PH		置換酸 度 Y1	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g				塩基飽和度 %	磷酸吸収 係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O	Na ₂ O			
1	6.6	6.4	0.3	33.09	30.56	0.57	1.13	0.21	98	779	4.0
2	6.2	5.7	0.3	35.88	28.00	3.25	1.13	0.50	92	1,324	3.3
3	6.3	5.7	0.3	26.23	19.00	0.50	0.56	0.29	78	991	0.6
4	6.3	5.7	0.3	22.02	14.75	0.25	0.23	0.23	88	903	Tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては大高台統、東岡統、高台段丘統、達美扇状統、活汲沢統、活汲扇状統等があるが、大高台統、東岡統とは堆積様式が異り、高台段丘統とは腐植含量、土性、土壌構造などが異なり、達美扇状統、活汲沢統、活汲扇状統等とは母材、堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩（凝灰岩）

A-4 堆積様式 洪積世堆積（河成）

B 地形 ほぼ平坦な台地

C 気候

気候は一般に冷涼で夏期にはしばしばオホーツク海高気圧の影響を受けて低温に見まれ、冷害を受けることがある。又山間地域では初霜も早い。

年平均気温 6.7℃ 年間降水量 706.8mm

D 植生及び利用状況

大部分畑地として利用され、てん菜、馬鈴薯、豆類、麦類などが栽培されている。

E 農業上の留意事項

大型機械の導入による深耕の際は下層土の磷酸固定力が大であるので、磷酸質肥料などの土壌改良資材の施用が必要である。

F 分布 網走郡津別町活汲二、豊水の一部

調査及び記載責任者 秋山喜三郎（北海道立北見農業試験場）

年月日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
活汲段丘-活汲段丘	It d

② 土壤区別説明

活 汲 段 丘 - 活 汲 段 丘

示 性 分 級 式 (畑)

土 壤	表 土	有 効	表 土	表 土	耕 転	土 地	透 水	保 湿	然	自 然	養 分	固 定	土 層	置 換	有 効	微 酸	障 害	物 質	災 害	地 冠	増 す	傾 斜	自 然	傾 斜	人 為	傾 斜	侵 蝕	耐 性	耐 性		
生 産 力 可 能 性 厚 等 級	の 層 の 深 さ	の 深 さ	の 深 さ	の 深 さ	の 深 さ	の 深 さ	の 深 さ	の 深 さ	の 深 さ	の 深 さ	の 深 さ	の 深 さ	の 深 さ	の 深 さ	の 深 さ	の 深 さ	の 深 さ	の 深 さ	の 深 さ	の 深 さ	の 深 さ	の 深 さ	の 深 さ	の 深 さ	の 深 さ	の 深 さ	の 深 さ	の 深 さ	の 深 さ		
	t	d	g	p		w		f		n							i		a		s								e		
II	I	I	I	I	2	1	1	1	(2)	I	1	2	1	I	1	2	1	1	I	1	I	1	1	I	1	--	I	1	2	1	
簡略分級式		I t d																													

A 土壤区の特徴

この土壤区は活汲段丘統に属する。表土の厚さは18cmで中庸、有効土層は1m内外でやや深い。表土の土性は中粒質で粘着性が弱く、農具の使用は容易である。保水性は中庸、透水性良好で過湿のおそれは少ない。

保肥力は大、固定力は小、土層の塩基状態は良好であり、自然肥沃度は高い。作土の養分含量は高いが、磷酸含量は中庸で、下層土は磷酸に欠乏している。酸性を呈しない、特殊の障害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

畑地として利用され、てん菜、馬鈴薯、豆類、麦類などが栽培されている。

C 地力保全上の問題点

深耕する場合磷酸質肥料などの土壤改良資材の施用が必要であろう。

D 分布

津別町活汲二、豊水の一部

記載責任者

秋山喜三郎(北海道立北見農業試験場)

日付

昭和44年3月31日

東 達 美 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ28cm内外で腐植含量8%前後、土性はCLが主である。色は10YRで彩度1、明度2、粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度10~15で疎、PH(H₂O)5.7前後、下層との境界は明瞭である。本層にはM₀-aを混合する。

第2層は厚さ12cm内外で腐植含量5%前後、土性はSCLが主である。色は7.5YRで彩度2、明度2のものが多い。浮石、熔岩、砂岩などの小礫を含む。粒状構造で発達程度は中度である。ち密度18~20で中、PH(H₂O)5.9前後、下層との境界は漸変である。

第3層は厚さ20cm内外で腐植を欠き、土性はLCSが主である。色は10YRで彩度4、明度3、熔岩、浮石、などの小礫にすこぶる富む、単粒状構造、ち密度は18~20で中、PH(H₂O)6.0前後、下層との境界は漸変である。

第4層は地表下概ね60cm以下で腐植を欠き、土性はLCSが主である。色は10YRで彩度6、明度5、熔岩、浮石などの小礫にすこぶる富む。単粒状構造でち密度20~22で中である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 網走郡津別町東達美 試坑6津22P

第1層	0~28cm	腐植に富む黒(10YR2/1)のCL、発達弱度の粒状構造、ち密度13で疎、PH(H ₂ O)5.7、調査時の湿り乾、境界平坦明瞭。
第2層	28~40cm	腐植を含む黒褐(10YR2/2)のSCL、発達中度の粒状構造、熔岩、浮石の小礫を含む。ち密度19で中、PH(H ₂ O)5.9、調査時の湿り乾、境界漸変
第3層	40~60cm	腐植を欠く暗褐(10YR3/4)のLCS、熔岩、浮石の小礫にすこぶる富む。単粒状構造、ち密度19で中、PH(H ₂ O)6.0、調査時の湿り乾、境界漸変
第4層	60~	腐植を欠く黄褐(10YR5/6)のLCS、熔岩、浮石の小礫にすこぶる富む。単粒状構造、ち密度21で中、調査時の湿り乾

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重g	真比重	全炭素%	全窒素%	炭素率	腐植%
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~28	4.5		18.6	34.9	28.7	17.8	CL	7.7	2.34	4.47	0.46	10	7.7
2	28~40	7.5		39.3	24.7	19.0	17.0	SCL	9.2	2.50	2.84	0.28	10	4.9
3	40~60	4.2		75.0	12.0	4.2	8.8	LCS	10.7	2.61	0.75	0.06		1.3

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g				塩基飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O	Na ₂ O			
1	5.7	4.9	0.6	23.76	12.75	0.75	0.84	0.11	60.8	903	2.3
2	5.9	5.0	0.5	26.23	14.50	1.50	0.42	0.40	62.2	1,297	0.1
3	6.0	4.9	0.6	14.10	8.00	0.25	0.69	0.36	66.0	693	1.7

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては、活汲段丘統、達美統、活汲沢統等があるが、活汲段丘統達美統、活汲沢統とは母材、堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩／非固結水成岩

A-4 堆積様式 風積（火山性）／洪積世堆積

B 地形 ほぼ平坦な河岸段丘

C 気候

気候は一般に冷涼で夏期にはしばしばオホーツク海高気圧の影響を受けて低温に見まれ、冷害を受けることがある。又山間地域では初霜も早い。

年平均気温 6.7℃ 年間降水量 706.8mm

D 植生及び利用状況

大部分畑地として利用されているが一部水田もある。てん菜、豆類、麦類、水稻が栽培されている。

E 農業上の留意事項

土壌母材が軽石質のもので瘠薄化しやすい土壌であるから、地力培養に努める必要があろう。また深耕に際しては磷酸質肥料の施用など土壌改良資材の施用が必要である。

F 分布 津別町東達美、活汲の一部

調査及び記載責任者

秋山喜三郎（北海道立北見農業試験場）

年月日

昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
東達美-東達美	ll d

② 土壌区別説明

東 達 美 一 東 達 美

示 性 分 級 式 (畑)

土 壤	表 有 表 耕	土	自	養	障	災	傾	侵	
生 産 力 可 能 性 等	効 土 耘 土 の 層 の 疎 深 含	表 表 表 土 土 土 の の の 粘 粘 粘 着 着 着 性 性 性	透 保 湿 然	保 固 土 層	置 換 " " 効 性 態 量	有 微 酸 害 理 冠 物 的 害 質 障 害 無 性	増 地 す べ り の 危 険 度 度	自 傾 人 然 斜 為 の 傾 傾 方 斜 斜 度 度 性	侵 耐 耐 水 風 蝕 蝕 度 性
級 さ さ 量 易		湿	度	否	性	性	斜	蝕	
t d g p		w	f	n	i	a	s	e	
II I II I I 2 I 1 I 1(2) I 1 2 I I 1 2 1 2 I 1 I I 1 I 1 I 1 -- I 1 1 1									
簡略分級式		II d							

A 土壤区の特徴

この土壤区は東達美統に属する。表土の厚さは28cmで深い。有効土層は60cm内外で中庸である。表土は中粒質で粘性弱く、耕起、碎土は容易である。保水性は中庸で過湿、過乾のおそれは少ない。

保肥力は大、磷酸固定力は小で、土層の塩基状態は良好で自然肥沃度は高い。作土の塩基含量は高いが、磷酸含量は欠乏している。酸性は呈しない。特殊の障害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

大部分畑地として利用されているが、一部水田として利用されている。てん菜、豆類、麦類、水稻などが栽培されている。

C 地力保全上の問題点

土壤母材が瘠薄化しやすい軽石質風化物よりなるので、地力培養に努める必要がある。また深耕の際に磷酸質肥料などの土壤改良資材の施用が必要である。

D 分 布

津別町東達美、活汲の一部

記載責任者 秋 山 喜三郎 (北海道立北見農業試験場)

日 付 昭和44年3月31日

岩 富 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外で腐植含量7%前後、土性はLiCが主である。色は10YRで彩度1、明度2、粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度15~17で疎、PH(H₂O)5.9前後、下層との境界は平坦明瞭である。本層はMe-a、b?層の混合層である。

第2層は厚さ5cm内外で腐植含量7%内外、土性はLiCが主である。色は10YRで彩度1、明度2、粒状構造で発達程度は弱度である。中、細小孔に富む。ち密度18~21で下層との境界は漸変である。

第3層は厚さ25cm内外で腐植含量3%内外、土性はLiCが主である。色は10YRで彩度3、明度4、粒状構造で発達程度は中度である。細孔に富む。ち密度8~21で中、PH(H₂O)5.4前後、下層との境界は漸変である。

第4層は地表下概ね50cm以下で腐植を欠き、土性CLが主である。色は10YRで彩度4、明度5、細塊状構造で発達程度は弱度である。細孔に富む。ち密度20~22で中、PH(H₂O)5.6前後である。

代表的断面形態

(所在地) 網走郡津別町岩富 試坑6津35D

第1層	0~20cm	腐植に富む黒(10YR2/1)のLiC、発達弱度の粒状構造、ち密度16で疎、PH(H ₂ O)5.9、調査時の湿り乾、下層との境界は平坦明瞭。
第2層	20~25cm	腐植に富む黒(10YR2/1)のLiC、発達弱度の粒状構造、ち密度20で中、調査時の湿り乾、下層との境界漸変
第3層	25~50cm	腐植を含む灰黄褐(10YR4/3)のLiC、発達中度の粒状構造、細孔に富む、ち密度19で中、PH(H ₂ O)5.4、調査時の湿り乾、境界漸変
第4層	50cm~	腐植を欠く灰黄褐(10YR5/4)のCL、発達弱度の細塊状構造、細孔に富む、ち密度21で中、調査時の湿り乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成%				土性	現地容積重g	真比重	全炭素%	全窒素%	炭素率	腐植%
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~20	5.7		5.2	41.3	27.8	25.7	LiC	72	2.29	4.00	0.49	8	6.9
3	25~50	7.3		1.3	41.4	31.4	25.9	LiC	93	2.45	1.97	0.25	8	3.4
4	50~	6.0		1.4	51.6	24.7	22.3	CL	108	2.54	0.70	0.22	-	1.2

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g				塩基飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O	Na ₂ O			
1	5.9	5.4	0.4	34.70	24.16	0.66	3.55	0.56	83	853	12.4
3	5.4	4.7	0.8	27.96	18.12	0.37	1.40	0.43	73	867	0.4
4	5.6	4.6	0.8	24.04	16.57	2.57	2.19	0.26	90	701	0.4

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては、達美統、西達美統、達美扇状統があるが、達美統、達美扇状統とは、母材、堆積様式が異なり、西達美統とは下層の母材が異なるため本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩/非固結水成岩（凝灰岩）

A-4 堆積様式 風積（火山性）/水積（河成堆積）

B 地形 河川流域の低地

C 気候

気候は一般に冷涼で夏期にはしばしばオホーツク海高気圧の影響を受けて低温に見まれ、冷害を受けることがある。又山間地域では初霜も早い。

年平均気温 6.7 °C 年間降水量 706.8 mm

D 植生及び利用状況

大部分畑地として利用され、豆類、てん菜、麦類等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

腐植含量比較的多く養肥分も多いが、更に地力の維持に努める必要がある。また深耕の際は下層土の磷酸含量が乏しいので磷酸質肥料の多施が必要である。

F 分布

津別町岩富の一部で網走川左岸の低地

調査及び記載責任者 秋山 喜三郎（北海道立北見農業試験場）

年月日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
岩富-岩富	IItd

② 土壌区別説明

木 樋 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20~22cm、腐植含量6~7%、土性はCLが主である。色は10YRで彩度1、明度2、粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度10~15で疎、PH(H₂O)5.5前後、下層との境界は平坦明瞭。本層にはMe-a、b?が混合している。

第2層は厚さ17cm内外で腐植を欠き、土性はLiCが主である。色は7.5YRで彩度4、明度4、粒状構造で発達程度は中度である。ち密度19~21で中、PH(H₂O)5.4前後、下層との境界は漸変である。

第3層は厚さ17cm内外で腐植を欠き、土性はSL~Lが主である。色は7.5YRで彩度4、明度5、細塊状構造で発達程度は弱度である。ち密度17~19で疎~中、下層との境界は明瞭である。

第4層は地表下概ね55~60cm以下で、砂岩の未風化中礫よりなる礫層である。ち密度は密である。

代表的断面形態

(所在地) 網走郡津別町木樋 試坑66津37B

第1層	0~22cm	腐植に富む黒褐(10YR3/1)のCL、発達弱度の粒状構造、ち密度13で中、PH(H ₂ O)5.5、調査時の湿り乾、境界平坦明瞭、本層はMe-a、b?の混合層である。
第2層	22~38cm	腐植を欠く褐(7.5YR4/4)のLiC、発達中度の粒状構造、中礫あり、ち密度20で中、PH(H ₂ O)5.4、調査時の湿り乾、境界漸変
第3層	38~55cm	腐植を欠く灰褐(7.5YR5/4)のSL~L、発達弱度の細塊状構造、未風化中礫あり、ち密度18で疎、調査時の湿り乾、境界明瞭。
第4層	55cm~	未風化中礫よりなる礫層

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成%				土性	現地容積 重量%	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~22	5.2		3.7	42.9	31.5	21.9	CL	70	2.30	3.83	0.40	10	6.6
2	22~38	6.6		3.4	42.1	26.8	27.7	LiC	107	2.52	1.04	0.13	8	1.8

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g				塩基飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O	Na ₂ O			
1	5.5	4.7	1.0	29.74	16.33	2.33	1.71	0.23	69	923	2.4
2	5.4	4.3	2.0	27.96	17.50	3.25	1.57	0.24	81	942	0.5

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては、本岐統、大高台統、二又統、活汲扇状統等があるが、これらの統とは母材、堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩/非固結水成岩 (砂岩)

A-4 堆積様式 風積 (火山性) / 水積 (河成堆積)

B 地形 小河川流域の低地

C 気候

気候は一般に冷涼で夏期にはしばしばオホーツク海高気圧の影響を受けて低温に見まれ、冷害を受けることがある。又山間地域では初霜も早い。

年平均気温 6.7℃ 年間降水量 706.8mm

D 植生及び利用状況

大部分畑地として利用されていて、豆類、てん菜、麦類、牧草等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

地力維持に対する対策と一部石礫の多い処もあるので、かかるところでは除石礫が必要である。

F 分布

津別町木樋、二又、沼沢の河川流域の低地

調査及び記載責任者 秋山喜三郎 (北海道立北見農業試験場)

年月日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
木樋-木樋	lltdp

② 土壌区別説明

木 槿 一 木 槿

示 性 分 級 式 (細)

土 壤	表 有 表 耕	土	自	養	障	災	傾	侵	
生 産 力 可 能 性 厚 等 級	効 土 の 層 の 隙 深 さ	表 土 の 粘 土 着 性	透 保 湿 然	保 固 土 層 の 塩 基 状 態 力	置 換 性 石 灰 含 量	有 微 酸 効 量 害 質 の 有 無 性	增 地 冠 す べ り の 危 険 度	自 傾 人 斜 傾 方 斜 傾 斜	侵 耐 耐 水 風 蝕 蝕 度 性
	t d g p	w	f	n	i	a	s	e	
II	II II I II 2 2 1	I 1 1 (2)	I 1 2 1	I 1 1 1 2 1 2	I 1 1	I 1 1	I 1 --	I 1 2 1	
簡略分級式		II t d p							

A 土壤区の特徴

この土壤区は木槿統に属する。表土の厚さは20cm内外で中庸、有効土層は50~60cmで中庸である。表土の土性は中粒質、粘着性は中庸で耕起、碎土はやゝ困難である。保水性中、透水性良好で過湿、過乾のおそれは少ない。

保肥力は大、磷酸固定力は小、土層の塩基状態は良好で自然肥沃度は高い。作土の養分含量は概ね良好であるが、下層土の磷酸含量は欠乏している。特殊の障害性は存在しない。土壤の耐侵蝕性は乏しいが、地形的にみて侵蝕のおそれは少ない。

B 植生及び利用状況

大部分畑地として利用されていて、豆類、てん菜、麦類、牧草等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

地力維持対策と一部石礫の多い処では除石をする必要がある。

D 分布

津別町木槿、二又、沼沢の河川流域の低地

記載責任者 秋山喜三郎 (北海道立北見農業試験場)

日付 昭和44年3月31日

相 生 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ25cm内外で腐植含量7%内外、土性はLが主である。色は7.5YRで彩度3、明度3、細粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度14~18で疎、PH(H₂O)5.7前後、下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ8cmで腐植を欠き、土性はSが主である。色は7.5YRで彩度3、明度7、細塊状構造で発達程度は弱度である。ち密度20~22で中、下層との境界は平坦明瞭である。本層と第1層はMe-a、b?層である。

第3層は厚さ15cm内外で腐植含量5%内外、土性はCLが主である。色は7.5YRで彩度3、明度3、粒状構造で発達程度は強度である。ち密度17~19で疎~中、PH(H₂O)5.8前後、下層との境界は平坦明瞭である。

第4層は厚さ10cm内外で未風化小礫の礫層、色は7.5YRで彩度2、明度4、ち密度は17~19で中、下層との境界は平坦明瞭である。

第5層は厚さ30cm内外で腐植を欠き、土性はSLが主である。色は10YRで彩度2、明度6、単粒状構造、ち密度17~18で疎、斑状及び管状の酸化沈積物を含む。下層との境界は平坦明瞭である。

第6層は地表下概ね88cm以下で未風化小~中礫の礫層。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 網走郡津別町相生 試坑 6津 29

第1層	0~25cm	腐植に富む暗褐(7.5YR3/3)のL、発達弱度の細粒状構造、ち密度16で疎、PH(H ₂ O)5.7、調査時の湿り乾、境界平坦明瞭。
第2層	25~33cm	腐植を欠く灰橙(7.5YR7/3)のS、発達弱度の細塊状構造、ち密度21で中、調査時の湿り乾、境界平坦明瞭、本層と第1層はMe-a、b?層である。
第3層	33~48cm	腐植を含む暗褐(7.5YR3/3)のCL、発達強度の粒状構造、ち密度18で疎、PH(H ₂ O)5.8、調査時の湿り乾、境界平坦明瞭。
第4層	48~58cm	未風化小礫の礫層、ち密度18で疎、境界平坦明瞭。
第5層	58~88cm	腐植を欠く黄褐灰(7.5YR6/2)のSL、単粒状構造、ち密度18で疎、斑状及び管状の酸化沈積物を含む。調査時の湿り半湿、境界平坦明瞭。
第6層	88cm~	未風化小~中礫の砂礫層

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成%				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~25	2.5		9.6	47.3	35.8	7.3	L	87	2.29	4.18	0.38	11	7.2
3	33~48	4.3		21.9	37.9	23.0	17.2	CL	86	2.43	2.73	0.34	8	4.7

層位	PH		置換酸度 Y_1	塩基置換容量 $me/100g$	置換性塩基 $me/100g$				塩基飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 $mg/100g$
	H_2O	KCL			CaO	MgO	K ₂ O	Na ₂ O			
1	5.7	5.3	0.4	22.14	17.60	0.33	0.51	0.33	81	5.64	9.9
3	5.8	5.3	0.3	18.56	13.87	0.50	0.31	0.40	81	6.35	3.6

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては、大高台統、恩根統、共和統、恩根沢統等があるが、大高台統、恩根統とは母材、堆積様式が異なり、共和統とは堆積様式、表土の母材は同一であるが、下層の母材は異なる。恩根沢統とは表土の母材は同一であるが、下層の母材、堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩／非固結火成岩（集塊岩）

A-4 堆積様式 風積（火山性）／水積（河成堆積）

B 地形 相生の小沢流域の低地

C 気候

気候は一般に冷涼で夏期にはしばしばオホーツク海高気圧の影響を受けて低温に見まわれ、冷害を受けることがある。又山間地域では初霜も早い。年平均気温 6.7℃、年間降水量 706.8 mm

D 植生及び使用状況

畑地として利用され、てん菜、豆類、牧草等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

地力維持、増進のための対策を常に心がけること。

F 分布 津別町相生の一部

調査及び記載責任者 秋山喜三郎（北海道立北見農業試験場）

年月日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
相生-相生	ltdf

② 土壌区別説明

相 生 一 相 生

示 性 分 級 式 (畑)

土	壤	表	有	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵	
生	効	土	土	表	表	透	保	置	有	有	増	自	侵
産	土	土	土	土	土	然	固	換	微	物	地	傾	耐
力	土	の	の	の	の	水	肥	の	効	理	冠	斜	水
可	の	層	の	の	の	潤	定	の	量	害	す	為	風
能	の	磔	粘	乾	水	沃	塩	石	量	質	の	の	蝕
性	厚	難	着	硬	乾	沃	基	灰	要	障	危	傾	蝕
等	深	含	性	性	性	力	状	土	素	害	險	方	蝕
級	さ	さ	易	湿	度	否	豊	里	度	無	度	斜	蝕
	t	d	g	p	w	f	n		i	a	s	e	
II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II
簡略分級式		II t d f											

A 土壤区の特徴

この土壤区は相生統に属する。表土の厚さ25cmで中庸、有効土層は90cm内外で中庸である。表土の土性は中粒質で粘着性弱く耕起、碎土は容易である。保水性中庸、透水性良好で下層に酸化沈積物を含むが、過湿、過乾のおそれは少ない。

保肥力は大～中、磷酸固定力のごく小、土層の塩基状態は良好であるが自然肥沃度は中庸である。作土の養分含量は多いが下層はやゝ瘠薄である。特殊な障害性は存在しない。地形はほぼ平坦であり侵蝕のおそれは少ない。

B 植生及び利用状況

大部分耕地となり、麦類、豆類、てん菜、牧草等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

地力維持、増進の対策と一部過湿地も存在するので、このような処では排水を行なう必要がある。

D 分布

津別町相生の一部

記載責任者

秋山喜三郎(北海道立北見農業試験場)

日付

昭和44年3月31日

達 美 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外で腐植含量2~5%、土性はSCLが主である。色は7.5YRで彩度4、明度4、粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度13~16で疎、PH(H₂O)5.8前後、下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ6cm内外でこの層は1cmの腐植を欠くS(7.5YR7/3)と3cmの腐植を欠くLで色は7.5YRで彩度4、明度4、粒状構造で発達程度は弱度、ち密度中と2cmの腐植を欠くSで色は7.5YRで彩度2、明度7、単粒構造の混合層である。下層との境界は平坦明瞭である。本層には2層の未風化火山灰層がある。

第3層は厚さ34cm内外で腐植を欠き、土性はSCLが主である。色は7.5YRで彩度4、明度5、塊状構造で発達程度は弱度である。細孔を含む。ち密度13~16で疎、PH(H₂O)6.4前後、下層との境界は平坦明瞭である。

第4層は地下概ね60cm以下で未風化小中礫の礫層

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 網走郡津別町本岐 試坑6津37

第1層	0~20cm	腐植を欠く褐(7.5YR4/4)のSCL、発達弱度の粒状構造、ち密度15で疎、PH(H ₂ O)5.8、調査時の湿り乾、境界平坦明瞭。
第2層	20~26cm	腐植を欠く灰橙(7.5YR7/3)のS、腐植を欠く褐(7.5YR4/4)のL、発達弱度の粒状構造、腐植を欠く淡褐灰(7.5YR7/2)のSとの混合層である。ち密度は15で中、調査時の湿り乾、下層との境界は平坦明瞭。本層には2層の火山灰層がある。
第3層	26~60cm	腐植を欠く灰褐(7.5YR5/4)のSCL、発達弱度の塊状構造、細孔を含む、ち密度15で疎、PH(H ₂ O)6.4、調査時の湿り乾、境界平坦明瞭。
第4層	60~	未風化小中礫よりなる礫層

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重 ρ	真比 重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~20	3.9		9.2	58.2	8.4	24.2	SCL	97	2.53	1.04	0.15	7	1.8
3	26~60	5.2		2.4	69.8	10.2	17.6	SCL	93	2.50	0.64	0.09		1.1

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g				塩基飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O	Na ₂ O			
1	5.8	4.8	0.5	25.24	17.75	1.00	1.87	0.25	83	6.18	9.4
3	6.4	5.5	0.3	31.43	15.00	0.75	13.50	0.26	94	7.88	4.8

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する土壌統としては本岐統、東達美統、岩富統、共和統、西達美統、大昭統、達美扇状統、恩根沢統、活汲扇状統等があるが、これらの統は夫々母材、堆積様式が異なるため本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩（砂岩及び凝灰岩）

A-4 堆積様式 水積（河成堆積）

B 地形 網走川流域の低地

C 気候

気候は一般に冷涼で夏期にはしばしばオホーツク海高気圧の影響を受けて、低温に見まわれ、冷害を受けることがある。又山間地域では初霜も早い。

年平均気温 6.7℃ 年間降水量 706.8mm

D 植生及び利用状況

大部分畑として利用されているが、一部水田としても利用されている。てん菜、豆類、麦類、水稻等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

地力維持、増進対策と一部石礫の多いところでは除石礫の必要がある。

F 分布 津別町岩富、達美、津別、共和、双葉、本岐の一部

調査及び記載責任者

秋山喜三郎（北海道立北見農業試験場）

年月日

昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
達美-達美	lltdp

② 土壌区別説明

達 美 統 一 達 美

示 性 分 級 式 (畑)

土 壤	表 有	表 土	耕 転	土	自 然	養 分	障 害	災 害	傾 斜	侵 蝕		
生 産 力 可 能 性 等 級	効 土 層 の 隙 深 さ	表 土 の 粘 着 性	表 土 の 風 乾 硬 さ	透 水 性	保 水 性	固 定 力	置 換 性 の 苦 澆 土 灰 含 量	有 機 酸 量 の 要 素	有 機 質 の 障 害 無 性	増 冠 す べ り の 危 険 度	自 然 傾 斜 の 傾 斜 度	耐 風 蝕 性
	t d g p	w	f	n	i	a	s	e				
	II II I II 2 2 2	I 1 1 (2)	I 1 2 1	I 1 1 1 2 1 1	I 1 1	I 1 1	I 1 1	I 1 1	I 1 1	I 1 1	I 1 1	I 1 1
簡略分級式	II t d p											

A 土壤区の特徴

この土壤区は達美統に属する。表土の厚さは20cm内外で中庸、有効土層は50～60cmで中庸である。表土の土性は中粒質、粘着性は中庸で耕起、砕土はやゝ困難である。保水性は中庸、透水性は良好であるため過湿、過乾のおそれは少ない。

保肥力大、磷酸固定力小で土層の塩基状態は良好で自然肥沃度は高い。作土の養分含量は高く、下層土は磷酸含量が中庸である外は養分含量も高い。特殊の障害性は存在しない。地形的にも侵蝕のおそれは少ない。

B 植生及び利用状況

大部分畑として利用されているが一部水田として利用されている。てん菜、豆類、麦類、水統等が栽培されている。

C 地力保全力の問題点

地力維持、増進対策と一部石礫の多いところでは除石が必要である。

D 分 布

津別町達美、岩富、津別、共和、双葉、本岐の一部

記載責任者 秋 山 喜三郎 (北海道立北見農業試験場)
日 付 昭和44年3月31日

恩 根 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ22cm内外で腐植含量2~5%、土性はCLが主である。色は10YRで彩度2、明度4、粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度13~17で疎、PH(H₂O)6.3前後、下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ8cm内外で腐植含量2%内外、土性はLiCが主である。色は10YRで彩度2、明度4、粒状構造で発達程度は中度である。細孔を含む、ち密度16~17で疎、PH(H₂O)5.8前後、下層との境界は平坦明瞭である。

第3層は厚さ15cm内外で腐植を欠き、土性はLiCが主である。色は10YRで彩度4、明度5、粒状構造で発達程度は中度である。細孔に富む。ち密度17~21で疎~中、PH(H₂O)5.8前後、下層との境界は漸変である。

第4層は15cm内外で腐植を欠き、土性はLが主である。色は10YRで彩度4、明度5、細塊状構造で発達程度は弱度である。細孔に富む。ち密度20で中、下層との境界は判然である。

第5層は地表下概ね60cm以下で腐植を欠き、土性はSLが主である。色は2.5Yで彩度4、明度5と彩度2、明度6の混色、細塊状構造で発達程度は弱度である。斑状酸化沈積物あり、ち密度15~18で疎。

代表的断面形態

(所在地) 網走郡津別町恩根 試坑6津36E

第1層	0~22cm	腐植を含む黄褐灰(10YR4/2)のCL、発達弱度の粒状構造、ち密度15で疎、PH(H ₂ O)6.3、調査時の湿り乾、境界平坦明瞭。
第2層	22~30cm	腐植を含む黄褐灰(10YR4/2)のLiC、発達中度の粒状構造、細孔含む。ち密度17で疎、PH(H ₂ O)5.8、調査時の湿り半湿、境界平坦明瞭。
第3層	30~45cm	腐植を欠く灰黄褐(10YR5/4)のLiC、発達中度の粒状構造、細孔に富む。ち密度20で中、PH(H ₂ O)5.8、調査時の湿り半湿、境界漸変
第4層	45~60cm	腐植を欠く灰黄褐(10YR5/4)のL、発達弱度の細塊状構造、細孔に富む。糸根状の酸化沈積物あり。ち密度19で中、調査時の湿り湿、境界判然。
第5層	60~	腐植を欠く黄褐(2.5Y5/4)と黄褐灰(2.5Y6/2)のSL、発達弱度の細塊状構造、斑状酸化沈積物あり、ち密度16で中。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	疎含量 重量%	粒径組成%				土性	現地容積 重%	真比 重	全炭素 %	全窒素 %	炭素 率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~22	3.5		6.0	47.3	25.2	21.4	CL	99	2.44	1.68	0.21	8	2.9
2	22~30	6.1		4.8	41.9	25.3	28.0	LiC	92	2.48	1.33	0.22	6	2.3
3	30~45	5.3		4.3	42.0	26.1	27.6	LiC	107	2.51	0.99	0.15		1.7

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g				塩基飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O	Na ₂ O			
1	6.3	5.5	0.3	18.84	13.33	3.99	0.94	0.17	100	564	7.5
2	5.8	5.1	0.5	22.02	15.37	0.62	0.64	0.30	77	732	1.5
3	5.8	4.9	0.5	20.79	13.00	3.50	0.62	0.32	84	618	1.0

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては二又統、恩根沢統、達美統、共和統等があるが、達美統とは母材、堆積様式は同様であるが、達美統は下層に礫層が現われ、表土の腐植含量もやや多く、土層は乾燥している。共和統は母材、堆積様式が異なり、二又統、恩根沢統共に母材、堆積様式が異なるため本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩 (砂岩、凝灰岩)

A-4 堆積様式 水積 (河成堆積)

B 地形 小河川流域の低平地

C 気候

気候は一般に冷涼で夏期にはしばしばオホーツク海高気圧の影響を受けて、低温に見まれ、冷害を受けることがある。又山間地域では初霜も早い。

年平均気温 6.7℃ 年間降水量 706.8mm

D 植生及び利用状況

大部分畑として利用されているが、一部水田もある。奥地では荒地も多い。てん菜、豆類、麦類、水稻、牧草等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

地力維持、増進対策の実施と一部過湿地も存在するので排水の実施が必要である。又過湿地では下層土が強酸性を呈するので酸性改良も必要である。

F 分布 津別町恩根の一部

調査及び記載責任者

秋山喜三郎 (北海道立北見農業試験場)

年月日

昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
恩根-恩根	lltdpw

② 土壌区別説明

恩 根 一 恩 根

示 性 分 級 式 (畑)

土	壤	表	有	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵												
生	効	表	表	表	透	保	湿	固	土	置	有	微	酸	有	物	増	地	自	傾	人	侵	耐	耐	
産	土	土	耘	土	土	地	然	層	分	換	"	"	効	害	理	冠	す	然	斜	為	水	風		
力	土	の	土	の	の	風	の	の	性	態	量	害	物	的	害	水	べ	の	傾	傾	の	蝕		
可	の	層	の	の	乾	の	水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	質	的	障	の	蝕	
能	の	隙	土	粘	土	の	硬	乾	沃	基	状	豊	含	"	"	"	素	度	無	性	度	傾	蝕	
性	厚	難	着	性	性	さ	性	性	度	力	力	態	量	量	量	素	度	無	性	度	斜	斜	蝕	
等	深	含	性	性	さ	性	性	度	力	力	態	量	量	量	素	度	無	性	度	斜	斜	蝕	蝕	
級	さ	さ	量	易	湿	度	度	否	性	性	斜	蝕												
	t	d	g	p	w	f	n		i	a	s	e												
	II	II	II	II	2	2	2	II	1	1	2	I	2	1	1	I	1	1	2	1	1	I	1	1
	簡略分級式		II t d p w																					

A 土壤区の特徴

この土壤区は恩根統に属する。表土の厚さは22cm内外で中庸、有効土層は60cm内外で中庸である。表土は中粒質、粘着性は中庸で耕起、砕土はやゝ困難である。保水性、透水性は中庸で過湿、過乾のおそれは、ごく一部を除き少ない。

保肥力は中、磷酸固定力はごく小、土層の塩基状態は良好で自然肥沃度は高い。作土の養分含量は高く、酸性を呈しない。下層は磷酸含量が低く、一部強酸性を呈するところもあるが他の養分は比較的多い。特殊の障害性は存在しない。地形的に見て風蝕はないが、河川の氾濫などによる水蝕も一部起るおそれがある。

B 植生及び利用状況

大部分畑として利用されているが、一部水田もある。てん菜、豆類、麦類、牧草、水稻等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

地力維持、増進対策と一部過湿地での排水の施行が必要である。

D 分布 津別町恩根の一部

記載責任者

秋山喜三郎(北海道立北見農業試験場)

日付

昭和44年3月31日

最 上 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ18cm内外で腐植含量3%内外、土性はSCLが主である。色は10YRで彩度3、明度4、未風化中円礫を含む。粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度13~15で疎、PH(H₂O)5.9前後、下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ17cm内外で腐植を欠き、土性はSCLが主である。色は10YRで彩度4、明度6、粒状構造で発達程度は弱度である。細孔を含む。ち密度15~18で疎、PH(H₂O)6.1前後、下層との境界は平坦明瞭である。

第3層は地表面概ね35cm以下で未風化中円礫の礫層

代 表 的 断 面 形 態

(所在地)網走郡津別町上最上 試坑66津37H

第1層	0~18cm	腐植を含む灰黄褐(10YR4/3)のSCL、発達弱度の粒状構造、未風化中円礫を含む。ち密度14で疎、PH(H ₂ O)5.9、境界平坦明瞭。
第2層	18~35cm	腐植を欠く灰黄橙(10YR6/4)のSCL、発達弱度の粒状構造、細孔を含む。ち密度17で疎、PH(H ₂ O)6.1、境界平坦明瞭。
第3層	35~	未風化中円礫よりなる礫層

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重 ρ	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~18	3.8		16.4	47.5	12.8	23.2	SCL		2.66	1.85	0.25	7	3.2
2	18~35	5.0		14.5	51.9	14.7	18.9	SCL		2.85	0.93	0.10	9	1.5

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g				塩基飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O	Na ₂ O			
1	5.9	5.0	0.5	22.8	17.50	2.50	0.41	0.16	90	618	8.8
2	6.1	5.0	0.3	21.8	19.25	0.75	0.35	0.14	94	764	0.5

A-2 他の土壌との関係

本統に隣接する統としては木樋統、恩根沢統等があるが、木樋統は堆積様式が風積（火山性）で異なり、恩根沢統は母材、堆積様式が異なるため本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩（砂岩）

A-4 堆積様式 水積（河成堆積）

B 地形

網走川の支流の低平地

C 気候

気候は一般に冷涼で夏期にはしばしばオホーツク海高気圧の影響を受けて、低温に見まれ、冷害を受けることがある。又山間地域では初霜も早い。

年平均気温 6.7℃ 年間降水量 706.8mm

D 植生及び利用状況

大部分耕地となり畑地として利用されているが、一部水田として利用されている。てん菜、豆類、麦類、水稻、牧草等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

礫層が浅く出現するため、早魃のおそれがあるので、有機物の補給に努めて地力培養を図る必要がある。また一部石礫の多いところもあるので、かかるところでは除石礫をする必要がある。

F 分布 津別町最上の一部

調査及び記載責任者

秋山喜三郎（北海道立北見農業試験場）

年月日

昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
最上-最上	III diltg (w)

② 土壌区別説明

最 上 一 最 上

示 性 分 級 式 (畑)

土	壤	表	有	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵								
生	産	効	土	土	土	透	保	固	置	有	有	増	地	自	傾	人	侵	耐	耐	
力	可	の	層	の	の	水	水	潤	肥	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	要	害	害
能	性	厚	深	含	性	性	性	度	力	力	状	態	量	量	量	量	量	量	量	量
等	級	さ	さ	量	易	湿	度	否	性	性	斜	斜	度	度	度	度	度	度	度	
		t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e								
		II	II	II	I	2	1	1	(II)	1	1	(2)	I	1	2	1	I	1	1	2
		III	1	1	I	1	1	I	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1
		簡略分級式 III di II tg (w)																		

A 土壌区の特徴

この土壌区は最上統に属する。表士の厚さは18cm内外で中庸、有効土層は30cm内外で浅い。表土は中粒質で粘着性弱く、耕起、砕土は容易である。保水性、透水性共に良好で過湿のおそれは少ないが、礫層が近いため過乾のおそれがある。

保肥力は大、磷酸固定力は小、土層の塩基状態は良好で自然肥沃度は高い。作土の養分含量は一般に高いが、下層土は磷酸含量が欠乏している。特殊の障害性は存在しない。地形は平坦で侵蝕のおそれは少ない。

B 植生及び利用状況

大部分畑地として利用され、一部水田としても利用されている。てん菜、豆類、麦類、牧草、水稻等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

地力培養を図る必要がある。また一部石礫の多いところでは除石礫を要する。

D 分布 津別町最上の一部

記載責任者

秋 山 喜三郎 (北海道立北見農業試験場)

日 付

昭和44年3月31日

共 和 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外で腐植含量7%内外、土性はLが主である。色は7.5YRで彩度4、明度3、粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度は1.6で疎、PH(H₂O)5.9前後、下層との境界は平坦明瞭である。本層はMe-ab?層を主体とする。

第2層は厚さ15cm内外で腐植含量5%内外、土性はFSLが主である。色は7.5YRで彩度3、明度4、粒状構造で発達程度は中度である。細孔を含む。ち密度1.6で疎、PH(H₂O)6.0前後、下層との境界は漸変である。

第3層は厚さ20cm内外で腐植を欠き、土性はLiCが主である。色は10YRで、彩度3、明度5、2~5mmの平板状構造で発達程度は弱度である。細孔あり程度、ち密度2.2で中、PH(H₂O)5.8前後、下層との境界は漸変である。

第4層は地表下概ね55cm以下で腐植を欠き、土性はCLが主である。色は10YRで彩度2、明度7、均質連結状構造で細孔わずかにあり程度。Mnの結核に富む、ち密度2.5で密、PH(H₂O)6.1。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 網走郡津別町上里 試坑₆津36

第1層	0~20cm	腐植に富む暗褐(7.5YR3/4)のL、発達弱度の粒状構造、ち密度1.6で疎、PH(H ₂ O)5.9、調査時の湿り乾、境界平坦明瞭、本層はMe-a、b?層である。
第2層	20~35cm	腐植に富む褐(7.5YR4/3)のFSL、発達中度の粒状構造、細孔を含む。ち密度1.6で疎、PH(H ₂ O)6.0、調査時の湿り乾、境界漸変。
第3層	35~55cm	腐植を欠く灰黄褐(10YR5/3)のLiC、発達弱度の平板状構造、細孔あり程度、ち密度2.2で中、PH(H ₂ O)5.8、調査時の湿り半湿、境界漸変。
第4層	55~	腐植を欠く淡黄褐灰(10YR7/2)のCL、均質連結状構造で細孔あり程度、Mnの結核に富む。ち密度2.5で密、PH(H ₂ O)6.1、調査時の湿り半湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成%				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~20	4.7		10.1	43.2	33.4	13.3	L	83	2.29	3.94	0.43	9	6.8
2	20~35	5.9		21.2	44.2	25.1	9.5	FSL	81	2.31	3.25	0.31	10	5.6
3	35~55	6.1		9.7	30.3	31.0	28.8	LiC	99	2.43	0.87	0.13	7	1.5
4	55~	6.1		21.6	31.3	22.5	24.6	CL			0.52	0.08		0.9

層位	PH		置換酸度 Y1	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g				塩基飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MGO	K ₂ O	Na ₂ O			
1	5.9	5.1	0.5	20.49	13.99	0.33	0.56	0.18	56	701	3.4
2	6.0	5.0	0.5	19.05	10.50	0.75	0.31	0.32	61	978	Tr
3	5.8	4.9	0.5	16.19	9.99	3.33	0.43	0.47	88	765	0.3
4	6.1	4.9	0.5	15.20	7.99	1.99	0.55	0.45	72	564	0.9

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては大高台統、東達美統、達美統、恩根統、美都統、大昭統、恩根沢統等があるが、大高台統、達美統、恩根統、大昭統は母材、堆積様式が異なり、美都統は堆積様式が異なり、東達美統は母材、堆積様式は類似するが、下層土がち密でないで異なり、大昭統は表土の母材、堆積様式は同様であるが、下層の母材、堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩/非固結水成岩

A-4 堆積様式 風積(火山性)/洪積世堆積

B 地形

網走川、津別川流域、および恩根の沢に分布する平坦な河成段丘

C 気候

気候は一般に冷涼で夏期にはしばしばオホーツク海高気圧の影響を受けて低温に見まれ、冷害を受けることがある。又山間地域では初霜も早い。年平均気温 6.7℃、年間降水量 706.8mm。

D 植生及び利用状況

大部分畑として利用されているが、一部水田として利用されている。てん菜、豆類、馬鈴薯、牧草、水稻が栽培されている。

E 農業上の留意事項

下層 50cm内外から不透水層盤となっており、時期的に湿性を呈するので、排水の実施が必要である。また盤層の近いところは心破の併用も必要であろう。その他地力培養対策も実施する必要がある。

F 分布 津別町共和、上里、双葉、本岐、相生の一部

調査及び記載責任者

秋山 喜三郎 (北海道立北見農業試験場)

年 月 日

昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
共和-共和	III i 11tdwfn

② 土壤区別説明

共和一共和

示性分級式(畑)

土	表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵		
生	効	表表表	透保湿	保固土	置	有微酸	有物	増地	自傾人	侵耐
産土	土	土土	然	層分	換	有	害理	冠す	然斜為	水風
力	土	土の	水水潤肥	の性	の石苦加	害	害	水べり	の	蝕
可	の層	のの乾	性性度	の塩	灰土里	害	害	の危	傾	蝕蝕
能	の礫	粘土	沃	基	含	害	害	の危	傾	蝕蝕
性厚	深合	性性さ	性性度	力力態	量	害	害	の危	傾	蝕蝕
等	易	湿	度	否	素度	無性	無性	度度	斜向斜	度性性
級	さ	量	度	否	素度	無性	無性	度度	斜向斜	度性性
	t d g p	w	f	n	i	a	s	e		
Ⅲ	Ⅱ Ⅱ Ⅰ Ⅰ 2 1 1 Ⅱ 2 2 2 Ⅱ 2 2 1 Ⅱ 1 2 1 2 1 2				Ⅲ 1 3 Ⅰ 1 1 Ⅰ 1 -- Ⅰ 1 1 1					
簡略分級式	Ⅲ i Ⅱ t d w f n									

A 土壤区の特徴

この土壤区は共和統に属する。表土の厚さは20cm内外で中庸、有効土層は50cm内外でやゝ浅い。表土の土性は中粒質で粘着性弱く耕起、砕土は容易である。保水性やゝ大きく、透水性不良のため時期的に過湿のおそれが多い。

保肥力は中、磷酸固定力は小、土層の塩基状態は良好で自然肥沃度は中位である。作土は苦土含量が低く、特に下層では磷酸含量が低い、特殊の障害性は存在しないがしばしば湿害を受けることがある。地形は平坦で侵蝕のおそれは少ない。

B 植生及び利用状況

大部分畑として利用されているが、一部水田としても利用されている。てん菜、豆類、馬鈴薯、牧草、水稻等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

暗渠排水の実施と一部心土破碎の併用および地力培養対策の実施。

D 分布 津別町共和、上里、双葉、本岐、相生の一部

記載責任者 秋山喜三郎(北海道立北見農業試験場)

日付 昭和44年3月31日

美 都 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ16cm内外で腐植含量5%内外、土性はCLが主である。色は7.5YRで彩度3、明度3、粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度15~17で疎、PH(H₂O)5.7前後、下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ13cm内外で腐植を欠き、土性はLSCが主である。色は10YRで彩度4、明度4、浮石の小礫を含む、単粒構造、ち密度15~17で疎、PH(H₂O)6.0前後、下層との境界は平坦明瞭である。

第3層は厚さ12cm内外で腐植含量2~5%、土性はSLが主である。色は10YRで彩度3、明度4、粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度18~21で中、下層との境界は平坦明瞭である。

第4層は厚さ23cm内外で腐植を欠き、土性はLが主である。色は10YRで彩度3、明度5、塊状構造で発達程度は弱度である。細孔あり程度。糸根状の酸化沈積物を含む。ち密度19~23で中、下層との境界は漸変である。

第5層は地表下概ね64cm内外以下で腐植を欠き、土性はLが主である。色は2.5Yで彩度2、明度6、塊状構造で発達程度は弱度である。細孔あり程度。糸根状の酸化沈積物を含む。ち密度25~29で密である。

代表的断面形態

(所在地) 網走郡津別町美都 試坑₆津36B

第1層	0~16cm	腐植に富む暗褐(7.5YR3/3)のCL、発達弱度の粒状構造、ち密度16で疎、PH(H ₂ O)5.7、調査時の湿り乾、境界平坦明瞭。
第2層	16~29cm	腐植を欠く褐(10YR4/4)のLCS、浮石の小礫を含む、単粒構造、ち密度16で疎、PH(H ₂ O)6.0、調査時の湿り乾、境界平坦明瞭。
第3層	29~41cm	腐植を含む灰黄褐(10YR4/3)のSL、発達弱度の粒状構造、ち密度20で中、調査時の湿り乾、境界平坦明瞭。
第4層	41~64cm	腐植を欠く灰黄褐(10YR3/3)のL、発達弱度の塊状構造、細孔あり程度、糸根状の酸化沈積物含む。ち密度21で中、調査時の湿り半湿、境界漸変。
第5層	64~	腐植を欠く黄褐灰(2.5Y6/2)のL、発達弱度の塊状構造、細孔あり程度、糸根状の酸化沈積物含む。ち密度27で密、調査時の湿り半湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成%				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素%	全窒素%	炭素率	腐植%
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~16	2.7		21.5	40.1	21.6	16.8	CL	-	-	2.90	0.26	11	5.0
2	16~29	1.3		58.0	27.3	3.9	10.8	LCS	-	-	0.46	0.09	5	0.8

層位	PH		置換酸度 Y_1	塩基置換容量 $me/100g$	置換性塩基 $me/100g$				塩基飽和度%	磷酸吸収係数	有効態磷酸 $mg/100g$
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O	Na ₂ O			
1	5.7	5.1	0.5	15.86	9.33	5.16	0.77	0.22	98	488	12.9
2	6.0	5.1	0.4	7.52	4.30	0.70	0.82	0.37	82	252	7.7

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては大高台統、高台段丘統、共和統、恩根沢統等があるが夫々堆積様式が異なり、大高台統、恩根沢統では母材も異なり本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 水積（河成堆積）

B 地形 津別川流域に分布する低平地

C 気候

気候は一般に冷涼で夏期にはしばしばオホーツク海高気圧の影響を受けて低温に見まれ、冷害を受けることがある。又山間地域では初霜も早い。

年平均気温 6.7℃ 年間降水量 706.8mm

D 植生及び利用状況

大部分畑として利用され、てん菜、豆類、馬鈴薯、麦類、牧草等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

時期的に湿性を呈するので排水の施行が必要である。また地力維持増進対策の実施も必要である。

F 分布 津別町津別、豊水、美都、上里の一部

調査及び記載責任者

秋山喜三郎（北海道立北見農業試験場）

年月日

昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
美都-美都	IItdwf

② 土壌区別説明

美 都 一 美 都

示 性 分 級 式 (畑)

土	表	有	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵	
生	効	土	表	表	透	保	置	有	有	増	自	侵
産	土	土	土	土	保	固	換	微	物	地	傾	耐
力	土	の	土	土	然	層	性	酸	害	冠	然	水
可	の	の	の	の	水	肥	の	性	物	す	斜	風
能	の	の	粘	乾	水	肥	石	態	的	べ	の	蝕
性	厚	難	土	着	潤	沃	灰	量	障	り	傾	蝕
等	深	含	着	硬	肥	力	土	"	害	の	方	蝕
	さ	量	性	さ	性	度	里	"	無	危	斜	性
	易		性	度	度	否	酸	"	性	険	向	性
			湿	度			要	素	性	険	斜	性
	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e	
	II	II	I	I	I	1	2	1	I	1	1	I
	1	2	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1
	簡略分級式 IItdwf											

A 土壤区の特徴

この土壤区は美都統に属する。表土の厚さは15cm内外でやゝ浅い。有効土層は60cm内外で中庸である。表土の土性は中粒質で粘着性弱く、耕起、砕土は容易である。保水性は中庸であるが、下層に堅密な土層があるため一時的に湿性を呈することがある。

保肥力は中、磷酸固定力はごく小、土層の塩基状態は良好であるが、自然肥沃度は中庸である。作土の養分含量は高く、酸性を呈しないが、下層の養分含量は劣る。特殊の障害性は存在しない。地形は比較的平坦で侵蝕のおそれは少ない。一部礫の多いところもある。

B 植生及び利用状況

大部分畑地として利用され、てん菜、馬鈴薯、豆類、麦類、牧草等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

排水の施行と地力培養対策の実施が必要である。また一部礫の多いところでは除礫も必要である。

D 分布 津別町津別、豊水、美都、上里の一部

記載責任者 秋山喜三郎 (北海道立北見農業試験場)

日付 昭和44年3月31日

西 遠 美 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ17cm内外で腐植含量3%内外、土性はCLが主である。色は10YRで彩度1、明度2、粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度15~17で疎、PH(H₂O)6.0前後、下層との境界平坦明瞭である。本層はMe-a層である。

第2層は厚さ7cm内外で2層に分化しており、上部3cmは腐植にすこぶる富み、土性はCLが主である。色は10YRで彩度1、明度1、粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度15~17で疎、下層との境界は平坦明瞭である。下部4cmは腐植を欠き、土性はSが主である。色は10YRで彩度2、明度7、単粒構造、ち密度17~20で疎~中、下層との境界は平坦明瞭である。本層はMe-b層である。

第3層は厚さ10cm内外で腐植土で、土性はHCが主である。色は10YRで彩度1、明度1、粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度14~15で疎、PH(H₂O)4.9前後、下層との境界は判然である。

第4層は厚さ13cm内外で腐植含量は2~5%内外、土性はHCが主である。色は2.5Yで彩度2、明度4、粒状構造で発達程度は中度である。ち密度14~15で疎、下層との境界は平坦明瞭である。

第5層は厚さ7cm内外で腐植含量5~10%、土性はCが主である。色は2.5Yで彩度0、明度3、均質連結状構造で細孔はほとんどない。斑状の酸化沈積物を含む。ち密度は14~15で疎、下層との境界は漸変する。

第6層は地表下概ね55cm以下で腐植を欠き、土性はLiCが主である。色は2.5Yで彩度2、明度7、均質連結状構造で細孔なし。斑状の酸化沈積物を含む。ち密度14~15で疎である。

代表的断面形態

(所在地) 網走郡津別町西達美 試坑66津51B

第1層	0~17cm	腐植にすこぶる富む黒(10YR2/1)のCL、発達弱度の粒状構造、ち密度16で疎、PH(H ₂ O)6.0、調査時の湿り半湿、境界平坦明瞭、本層はMe-a層である。
第2層	17~24cm	本層は2層に分化している。上部3cmは腐植にすこぶる富む黒(10YR1/1)のCL、発達弱度の粒状構造、ち密度16で疎、調査時の湿り半湿、境界平坦明瞭。下部4cmは腐植を欠く淡黄褐灰(10YR7/2)のS、単粒構造、ち密度18で疎、調査時の湿り半湿、境界平坦明瞭。本層はMe-b層である。
第3層	24~35cm	腐植土で黒(10YR1/1)発達弱度の粒状構造、ち密度15で疎、PH(H ₂ O)4.9、調査時の湿り湿、境界判然
第4層	35~48cm	腐植を含む黄褐灰(2.5Y4/2)のC、発達中度の粒状構造、ち密度14で疎、調査時の湿り濡、境界平坦明瞭。
第5層	48~55cm	腐植に富む灰黒(2.5Y3/0)のC、均質連結状構造、斑状の酸化沈積物含む。ち密度15で疎、調査時の湿り濡、境界漸変。
第6層	55~	腐植を欠く淡黄灰(2.5Y7/2)のLiC、均質連結状構造、斑状の酸化沈積物を含む。ち密度15で疎、PH(H ₂ O)5.2、調査時の湿り湧水する。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成%				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素%	全窒素%	炭素率	腐植%
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~17	5.4		10.8	36.1	33.7	19.4	CL	63	2.13	1.97	0.27	7	3.4
3	24~35	13.1		6.4	6.7	40.9	46.0	HC	41	1.98	12.99	1.02	13	22.4
6	55~	6.1		1.9	16.3	42.0	39.8	LiC	104	2.53	1.04	0.10	10	1.8

層位	PH		置換酸度 Y_1	塩基置換容量 $me/100g$	置換性塩基 $me/100g$				塩基飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 $mg/100g$
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O	Na ₂ O			
1	6.0	5.1	0.3	23.01	15.00	2.25	1.77	0.36	84	853	0.7
3	4.9	4.0	7.0	81.32	25.20	2.00	0.31	0.40	34	1,925	0.3
6	5.2	3.9	5.5	29.03	18.33	0.33	0.68	0.95	70.0	756	0.2

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては岩富統、達美統、達美扇状統等があるが、岩富統は下層の母材が異なり、更に湿性を呈しないので異なり、達美統は母材、堆積様式が異なり、更に湿性を呈さないの異なる。達美扇状統は母材、堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩/非固結水成岩(頁岩)

A-4 堆積様式 風積(火山性)/水積(河成堆積)

B 地形 網走川左岸の低平地

C 気候

気候は一般に冷涼で夏期にはしばしばオホーツク海高気圧の影響を受けて、低温に見まわれ、冷害を受けることがある。又山間地域では初霜も早い。

年平均気温 6.7℃ 年間降水量 706.8mm

D 植生及び利用状況

大部分畑地として利用され、豆類、てん菜等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

地下水位が高く排水不良を呈する。明渠、暗渠の施行が必要であろう。また下層は強酸性を呈するので大型機械導入による深耕の際には炭カル、磷酸質資材の導入が必要であろう。

F 分布 津別町西達美、岩富の一部

調査及び記載責任者

秋山喜三郎(北海道立北見農業試験場)

年月日

昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
西達美-西達美	lltdpwf

② 土壤区別説明

西 達 美 — 西 達 美

示 性 分 級 式 (畑)

土 壤	表 有 表 耕	土	自	養	障	災	傾	侵	
生	効 土 耘	表 表 表 土 土 土 の 乾 乾	透 保 湿	保 固 土	置 有 微 酸	有 表 增	地 傾	自 傾 人	
産 土	土 土	地 地	然	層 分 換	効 効 効	害 理 冠	水 冠 水	斜 為	
力 土	の 土	の 風	水 水 潤 肥 肥 定 塩	の 性 態	害 質 的 害	害 物 的 害	の 危 險	の 傾 傾	
可 的 能	の 層 隙	の 粘 土 着 硬 乾	性 性 性	基 状 豊	害 質 的 害	害 物 的 害	の 危 險	の 傾 傾	
性 厚 等	深 含 難	性 性 性	力 力 態	量 量 量	害 質 的 害	害 物 的 害	の 危 險	の 傾 傾	
級	さ さ 量 易	湿 度	否	性 性 性	性 性 性	性 性 性	斜 斜 斜	傾 傾 傾	
	t d g p	w	f	n	i	a	s	e	
	II II II I II 2 2 2 II 2 2 2 II 1 3 2 I 1 1 1 3 1 1 I 1 1 I 1 1 I 1 1 I 1 1 I 1 1 I 1 1								
簡略分級式		IIt dpwf							

A 土壤区の特徴

この土壤統は西達美統に属する。表土の厚さは17~20cmで中庸、有効土層は50cm内外でやゝ浅い。表土は中粒質で粘着性やゝ強く、耕起、碎土はやゝ困難である。透水性は下層土の粘性が強く、均質連結状構造のため不良であり、地下水位高く、過湿である。

保肥力は大、作土の磷酸固定は小~中で、土層の塩基状態はやゝ良好で自然肥沃度はやゝ高い。養分含量は磷酸を除いて多く、下層土は磷酸固定大で加里、磷酸含量が少ない。

特殊の障害性は存在しないが、湿害のおそれがある。地形は平坦で侵蝕のおそれは少ない。

B 植生及び利用状況

大部分畑地として利用され、豆類、てん菜等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

地下水位が高く過湿地であるから排水の実施が必要である。また下層は劣悪な性質を示すので深耕の際は炭カル、磷酸質資材などの導入が必要である。

D 分布 津別町西達美、岩富の一部

記載責任者 秋 山 喜三郎 (北海道立北見農業試験場)

日 付 昭和44年3月31日

活 汲 沢 統

(i) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ25cm内外で腐植含量は2~3%、土性はFSLが主である。色は10YRで彩度2、明度3、粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度16~18で疎、PH(H₂O)6.9前後、下層との境界は平坦明瞭である。本層はMe-a、b層の混合層である。

第2層は厚さ20cm内外で腐植を欠き、土性はFSLが主である。色は2.5Yで彩度2、明度6、単粒構造、斑状の酸化沈着物に富む、ち密度20~23で中、PH(H₂O)5.8前後、下層との境界は平坦明瞭である。

第3層は地表下概ね45cm以下で未風化中円礫よりなる礫層。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 網走郡津別町活汲 試坑16津30

第1層	0~25cm	腐植を含む黒褐(10YR3/2)のFSL、発達弱度の粒状構造、ち密度17で疎、PH(H ₂ O)6.9、調査時の湿り乾、境界平坦明瞭。
第2層	25~45cm	腐植を欠く黄褐灰(2.5Y6/2)のFSL、単粒構造、斑状の酸化沈積物に富む、ち密度22で中、PH(H ₂ O)5.8、調査時の湿り半湿、境界平坦明瞭。
第3層	45~	未風化中円礫よりなる礫層

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重 _g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~25	2.8		22.3	54.8	11.6	11.3	FSL			1.51	0.18	8	2.6
2	25~45	1.5		35.3	47.6	7.4	9.7	FSL			0.23	0.18		0.4

層位	PH		置換酸度 Y 1	塩基置換容 量 me/100g	置換性塩基 me/100g				塩基飽和度 %	磷酸吸収 係 数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	Kcl			CaO	MgO	K ₂ O	Na ₂ O			
1	6.9	6.5	0.3	17.57	16.62	0.50	0.67	0.41	104	578	7.9
2	5.8	4.5	1.0	9.10	6.25	1.25	0.54	0.31	92	488	0.3

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては大高台統、東岡統、活汲段丘統、東達美統、達美統、東岡南統、活汲扇状統等があるが、大高台統、東岡統、東岡南統は母材、堆積様式が異なり、東達美統、活汲扇状統は堆積様式が異なる。活汲段丘統、東達美統、活汲扇状統は堆積様式が異なるが、下層の母材は同一である。従つてこれらの統は本統と区別される。

A-3 母 材 非固結火成岩 / 非固結水成岩 (凝灰岩)

A-4 堆積様式 風 積 火山性 / 水積 (河成堆積)

B 地 形 小河川流域の低平地

C 気 候

気候は一般に冷涼で夏期にはしばしばオホーツク海高気圧の影響を受けて、低温に見まわれ、冷害を受けることがある。又山間地域では初霜も早い。

年平均気温 6.7℃、年間降水量 706.8 mm

D 植生及び利用状況

大部分は畑地として、一部水田として利用されている。豆類、てん菜、水稻等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

過湿地であるので排水の完備が必要である。また砂層の近いところでは有機物の補給と共に深耕して地力の培養を図るべきであろう。

F 分 布 津別町活汲の一部

調査及び記載責任者 秋 山 喜三郎 (北海道立北見農業試験場)

年 月 日 昭和 44 年 3 月 31 日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
活 汲 沢 — 活 汲 沢	III d w i 0 t

② 土壌区分説明

活 汲 沢 一 活 汲 沢

示 性 分 級 式 (畑)

土	表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵		
生	効土	表表表	透保湿	保固土	置	有微酸	有物	增地	自傾人	侵耐耐
産土	土土	土土土	然	層分換	の有	害理	害冠す	然斜為	傾傾	水風
力	土の	土の風	水水潤肥	肥定塩	の性態量	害質障	害のの	の傾	傾	水風
可	の層	の粘土	水水潤肥	肥定塩	の石苦加	害質障	害のの	の傾	傾	水風
能	の礫	土着	乾	沃	灰土里酸	害質障	害のの	の傾	傾	水風
性	厚	難	性性度	力力態	含	有害	危	傾	傾	水風
等	深	含	性性度	力力態	量	無性	險	斜向斜	斜向斜	度性性
級	さ	量	湿	度	否	性	性	斜	斜	度性性
	t	d g p	w	f	n	i	a	s	e	
Ⅲ	Ⅱ Ⅲ Ⅰ Ⅰ Ⅰ Ⅰ (2)	Ⅲ Ⅰ Ⅰ Ⅱ	Ⅰ Ⅱ Ⅰ Ⅰ	Ⅰ Ⅰ Ⅱ Ⅰ Ⅱ Ⅰ Ⅰ	Ⅲ Ⅰ Ⅲ	Ⅰ Ⅰ Ⅰ	Ⅰ Ⅰ Ⅰ	Ⅰ Ⅰ Ⅰ	Ⅰ Ⅰ Ⅰ	Ⅰ Ⅰ Ⅰ
簡略分級式 Ⅲdwi Ⅱt										

A 土壤区の特徴

この土壤区は活汲沢統に属する。表土の厚さは25cm内外でやゝ深く、有効土層は45cm内外でやゝ浅い。表土の土性は粗粒質で粘着性は弱く耕起、碎土は容易である。土壤の透水性は良好であるが地下水位が高いため過湿のおそれが多い。

保肥力は中、磷酸固定力は小、土層の塩基状態は良好で自然肥沃度はやゝ高い。作土の養分含量は中庸であるが、下層では磷酸に欠乏している。地形平坦で侵蝕のおそれはない。

B 植生及び利用状況

大部分畑地として、一部水田として利用されている。豆類、てん菜、水稻等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

過湿地であるので排水の完備が必要である。また砂層の近いところでは有機物の補給により地力培養に努めるべきである。

D 分 布 津別町活汲の一部

記載責任者 秋 山 喜三郎 (北海道立北見農業試験場)
日 付 昭和44年3月31日

大 昭 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外で腐植含量4%内外、土性はCLが主である。色は10YRで彩度3、明度5、粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度15~18で疎、PH(H₂O)5.4前後、下層との境界は平坦明瞭である。本層はMe-a層である。

第2層は厚さ16cm内外で腐植を欠き、土性はLが主である。本層は3層に分化しており、上部5cmはMe-a層(C層)で、色は10YRで彩度3、明度7、次いで1cmのMe-b層(A層)で色は10YRで彩度1、明度6、最下部は厚さ10cmで色は10YRで彩度2、明度8、単粒構造で斑状の酸化沈積物を含む。ち密度22~23で中、PH(H₂O)6.2前後、下層との境界は平坦明瞭である。

第3層は腐植を欠き、土性はCと礫土の互層で平均的な土性はCLである。色は10YRで彩度8明度5、塊状構造で発達程度は弱度である。斑管状の酸化沈積物に富む。ち密度17~20で疎~中、PH(H₂O)5.9前後、下層との境界平坦明瞭。

第4層は地表下概ね60cm以下で腐植を欠き、土性はCが主である。色は2.5Yで彩度2、明度7、均質連結状構造で孔隙なし、管、斑状の酸化沈積物を含む。ち密度15~17で疎である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 網走郡津別町大昭 試坑6津55

第1層	0~20cm	腐植を含む灰黄褐(10YR5/3)のCL、発達弱度の粒状構造、ち密度17で疎、PH(H ₂ O)5.4、調査時の湿り乾、境界平坦明瞭、本層はMe-a層である。
第2層	20~36cm	腐植を欠く、灰黄橙(10YR7/3)-Me-a(C層)、黄褐灰(10YR6/1)-Me-b(A層)、淡黄橙(10YR8/2)-Me-b(C層)の混合層で土性はL。単粒構造で斑状の酸化沈積物を含む。ち密度23で中、PH(H ₂ O)6.2、調査時の湿り半湿、境界平坦明瞭
第3層	36~60cm	腐植を欠く、黄褐(10YR5/8)のCおよびGの互層で平均的な土性はCLである。発達弱度の塊状構造、斑、管状の酸化沈積物に富む。ち密度19で中、PH(H ₂ O)5.9、調査時の湿り半湿、境界平坦明瞭。
第4層	60~	腐植を欠く淡黄灰(2.5Y7/2)のC、均質連結状構造で孔隙なし、斑状、管状の酸化沈積物を含むち密度16で中、ち密度16で疎。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量重量 %	粒径組成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~20	3.8		2.1	37.8	41.3	18.8	CL	73	2.42	2.61	0.28	9	4.5
2	20~36	1.3		4.2	53.9	39.1	2.8	L	85	2.42	0.75	0.09	8	1.3
3	36~60	6.5		7.8	35.5	34.5	22.2	CL	87	2.56	1.10	0.15	7	1.9

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g				塩基飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O	Na ₂ O			
1	5.4	4.3	3.0	19.83	9.66	1.66	0.58	0.33	62	586	4.1
2	6.2	5.3	0.3	5.94	2.83	1.83	0.12	0.18	84	548	4.4
3	5.9	5.2	0.3	23.51	15.50	0.25	0.79	0.31	72	1,116	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては大高台統、達美統、共和統、恩根決統等があるが、それぞれ、母材、堆積様式が異なるので区別される。

A-3 母材 非固結火成岩/非固結水成岩(頁岩)

A-4 堆積様式 風積(火山性)/水積(河成堆積)

B 地形 小河川流域に分布する低平地

C 気候

気候は一般に冷涼で夏期にはしばしばオホーツク海高気圧の影響を受けて低温に見まれ、冷害を受けることがある。又山間地域では初霜も早い。年平均気温 6.7℃、年間降水量 706.8mm。

D 植生及び利用状況

大部分畑地として利用され、豆類、てん菜、馬鈴薯等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

地下水位が高く過湿地であるから排水を充分施行する必要がある。また土層内に火山灰砂層を挟在するところは作物根の伸長を阻害するので深耕も必要であろう。

F 分布 津別町大昭の一部

調査及び記載責任者 秋山喜三郎 (北海道立北見農業試験場)

年月日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
大昭 - 大昭	It d wf

② 土壌区分説明

大 昭 一 大 昭

示 性 分 級 式 (畑)

土	表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵	
壤	効土	(表表)	(透保)	(保固)	(置換)	(有微)	(增地)	(自傾)	(侵耐)
生	土	土の	然	層	" "	害	冠す	然斜	為
産	土	土の	水	の	性	物	水	傾	風
力	の	の	潤	塩	態	害	り	方	水
可	層	粘	肥	基	量	質	の	傾	蝕
能	の	土	沃	状	" "	障	危	傾	蝕
性	厚	着	沃	豊	" "	害	險	方	蝕
等	深	性	性	力	量	無	險	斜	蝕
級	さ	易	度	否		性	度	斜	蝕
	t d g p	w	f	n		i	a	s	e
Ⅱ	Ⅱ Ⅱ Ⅰ Ⅰ 2 1 1	Ⅱ 2 1 3	Ⅱ 3 2 2	Ⅰ 1 1 1 2 1 1		Ⅰ 1 1	Ⅰ 1 1	Ⅰ 1 --	Ⅰ 1 1 1
簡略分級式		Ⅱ t d w f							

A 土壤区の特徴

この土壤区は大昭統に属する。表土の厚さは20cm内外で中庸、有効土層は60cm以内で中庸、表土の土性は中粒質で粘着性弱く、耕起、碎土は容易である。透水性は下層が不良で地下水位が高いため過湿のおそれが多い。

保肥力は中、磷酸固定力は小で土層の塩基状態はやゝ良好で、自然肥沃度は中庸である。作土の養分含量は比較的多いが、下層土特に第2層は、養分含量が少ない。地下水位が高いので、冷湿害の影響を受けるおそれが多い。地形は平坦なので侵蝕のおそれは少ない。

B 植生及び利用状況

大部分畑地として利用され、豆類、てん菜、馬鈴薯等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

過湿のおそれが多いので完全な排水が必要である。また土層内に作物根の伸長を阻害する火山砂層があるので、有機物を補給しながら深耕が必要であろう。

D 分 布 津別町大昭の一部

記載責任者 秋 山 喜三郎 (北海道立北見農業試験場)

日 付 昭和44年3月31日

東 岡 南 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ18cm内外で腐植含量6%内外、土性はLが主である。色は10YRで彩度1、明度4、安山岩、砂岩の小礫に富み、地表には安山岩大～巨礫の転石あり。粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度12～16で疎、PH(H₂O)5.7前後、下層との境界は漸変である。

第2層は厚さ17cm内外で腐植含量は2%内外、土性はLが主である。色は10YRで彩度3、明度3、安山岩、砂岩の小礫に富む。粒状構造で発達程度は中度である。ち密度17～20で疎～中、PH(H₂O)6.0前後、下層との境界は漸変である。

第3層は厚さ20cm内外で腐植を欠き、土性はLが主である。色は10YRで彩度4、明度5、安山岩、砂岩の小礫に富む。粒状構造で発達程度は中度である。ち密度は19～22で中、下層との境界は平坦明瞭である。

第4層は地表下概ね55cm以下で安山岩小～中礫よりなる礫層。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 網走郡津別町東岡

試坑66津1

層	厚さ	特徴
第1層	0～18cm	腐植に富む黄褐灰(10YR4/1)のL、安山岩、砂岩の小礫に富む。また地表に大～巨礫がある。発達弱度の粒状構造、ち密度14で疎、PH(H ₂ O)5.7、調査時の湿り過、境界漸変。
第2層	18～35cm	腐植を含む暗褐(10YR3/3)のL、安山岩、砂岩の小礫に富む。発達中度の粒状構造、ち密度19で中、PH(H ₂ O)6.0、調査時の湿り乾、境界漸変。
第3層	35～55cm	腐植を欠く灰黄褐(10YR5/4)のL、安山岩、砂岩の小礫に富む。発達中度の粒状構造。細孔含む。ち密度21で中、調査時の湿り乾、境界平坦明瞭
第4層	55～	安山岩、砂岩の小～中礫よりなる礫層

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位cm	水分%	礫含量重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重g	真比重	全炭素%	全窒素%	炭素率	腐植%
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0～18	5.3		19.2	41.1	34.0	5.7	L	74	2.42	3.60	0.34	11	6.2
2	18～35	6.6		24.6	34.0	32.6	8.8	L	106	2.61	1.45	0.16	9	2.5

層位	PH		置換酸 度 Y1	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g				塩基飽 和度%	磷酸吸 収係数	有効態磷酸 me/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O	Na ₂ O			
1	5.7	5.2	0.5	23.51	14.50	0.75	0.54	0.20	68.0	764	1.9
2	6.0	5.2	0.3	18.81	13.00	3.75	0.35	0.24	92	881	0.3

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては東岡統、活汲沢統があるが、母材、堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩（安山岩）、非固結水成岩（砂岩）

A-4 堆積様式 崩積

B 地形

丘陵斜面に分布する傾斜地

C 気候

気候は一般に冷涼で夏期にはしばしばオホーツク海高気圧の影響を受けて低温に見まれ、冷害を受けることがある。又山間地域では初霜も早い。年平均気温 6.7℃、年間降水量 706.8mm

D 植生及び利用状況

大半畑地として利用されているが、一部未耕地もある。畑にはてん菜、豆類、麦類、牧草等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

石礫の多いところでは除石礫を必要とし、急傾斜地では侵蝕防止のための牧草帯の設置、被覆作物の栽培などの対策を実施する必要がある。

F 分布 津別町東岡の一部

調査及び記載責任者 秋山喜三郎（北海道立北見農業試験場）

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
東 岡 南 - 東 岡 南	IIIseIItdgpn

② 土壌区別説明

東 岡 南 - 東 岡 南

示性分級式(畑)

土	表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵	
生	効土	表表表	透保湿	保固土	置有微酸	有物	増地	自傾人	侵耐耐
産土	土転	土土土	然	層分	換" "効	害理	冠す	然斜為	水風
力	土の	土の風	水水潤	肥定塩	の石苦加	害物的	水のり	のの	水風
可	の層	の粘乾	の水水潤	肥定塩	の石苦加	害的障	のの	の傾傾	水風
能	の礫	土着の硬乾	沃	状豊	灰土里酸	害の障	の危危	傾傾	蝕蝕
性厚	含難	性性さ	性性度	力力態	量" "素	有害	險險	方	蝕蝕
等	深					無性	度度	斜向斜	度性性
級	さ	量	湿	度	否	性	性	斜	蝕
	t d g p	w	f	n		i	a	s	e
■	II II II II	2 2 1	I 1 1 1	I 2 2 1	II 1 2 1 3 1 2	I 1 1	I 1 1	III 3S-N-	III 3 2 1
簡略分級式 IIIseIItdgpn									

A 土壤区の特徴

この土壤区は東岡南統に属する。表土の厚さは18cm内外で中庸で、有効土層は50cm内外でやや浅い。表土は礫に富み、一部地表には大～巨礫も散在する。表土は中粒質で粘着性は中庸、耕起、砕土はやゝ困難である。透水性は良好で過乾、過湿のおそれは少ない。

保肥力は大～中、磷酸固定力は小で土層の塩基状態は良好で自然肥沃度はやや高い。作土の養分含量は比較的多いが磷酸含量は少ない。下層土も同様な傾向にある。特殊の障害性は存在しない。傾斜地にあるため侵蝕のおそれが多い。

B 植生及び利用状況

大半畑地として利用されているが、一部未耕地もある。畑にはてん菜、豆類、麦類、牧草等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

石礫の多いところでは除石を必要とし、急傾斜地では侵蝕防止のための牧草帯の設置、被覆作物の栽培などの対策を実施すべきであろう。

D 分布 津別町東岡の一部

記載責任者 秋山喜三郎 (北海道立北見農業試験場)

日付 昭和44年3月31日

達 美 扇 状 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20~25cmで腐植含量7%内外、土性はCLが主である。色は10YRで彩度1~2明度3、頁岩の半風化小礫を含む~富む。粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度15~18で疎、PH(H₂O) 5.9前後、下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ10cm内外で頁岩の半風化小礫~中礫よりなる礫層。

第3層は厚さ25cm内外で腐植を欠き、土性はCLが主である。色は10YRで彩度4、明度5、頁岩の半風化小礫を含む。粒状構造で発達程度は中度である。細孔を含む。ち密度15~18で疎、PH(H₂O) 5.8前後、下層との境界は平坦明瞭である。

第4層は地表下概ね55cm以下で半風化小~中礫よりなる礫層。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 網走郡津別町達美 試坑No.51

第1層	0~20cm	腐植に富む黒褐(10YR3/1)のCL、頁岩の半風化小礫含む。発達弱度の粒状構造、ち密度16で疎、PH(H ₂ O) 5.9、調査時の湿り乾、境界平坦明瞭。
第2層	20~30cm	頁岩の未風化小~中礫よりなる礫層。
第3層	30~55cm	腐植を欠く灰黄褐(10YR5/4)のCL、頁岩の未風化小礫を含む。発達中度の粒状構造、細孔含む。ち密度17で疎、PH(H ₂ O) 5.8、調査時の湿り乾、境界平坦明瞭。
第4層	55~	頁岩の未風化小~中礫よりなる礫層。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重 ρ	真比 重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~20	7.0		4.8	40.3	29.1	25.8	CL	83	2.42	4.29	0.43	10	7.4
3	30~55	5.6		2.3	40.9	36.3	20.5	CL	95	2.56	0.70	0.12		1.2

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容 量 me/100g	置換性塩基 me/100g				塩基飽和度 %	磷酸吸収 係 数	有効態 酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaC	MgO	K ₂ O	Na ₂ O			
1	5.9	4.9	0.6	25.78	24.33	0.66	3.65	0.62	114	739	7.7
3	5.8	4.7	0.8	26.58	14.28	1.42	6.77	0.41	86	701	0.9

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては岩富統、達美統、西達美統等があるが、これらはいずれも堆積様式が異なり、さらに岩富統、達美統は母材も異なるので本統とは区別される。

A-3 母 材 非固結水成岩(頁岩)

A-4 堆積様式 水積(扇状堆土)

B 地 形

網走川流域の低地および一部高台の台地の緩傾斜地

C 気 候

気候は一般に冷涼で夏期にはしばしばオホーツク海高気圧の影響を受けて、低温に見まれ、冷害を受けることがある。又山間地域では初霜も早い。年平均気温6.7℃、年間降水量706.8mm。

D 植生及び利用状況

畑地として利用され、豆類、麦類、てん菜等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

一部石礫が多く、有効土層が浅く過乾のおそれのあるところでは有機物の補給および深耕によって地力培養に努める必要がある。

F 分 布 津別町達美、最上の一部

調査及び記載責任者 秋 山 喜三郎 (北海道立北見農業試験場)

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
達美扇状 — 達美扇状	IItdgp(w)is

② 土壤区別説明

達美扇状 — 達美扇状

示性分級式(畑)

土	表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵	
生	効土	表表表	透保濕	保固土	置有微酸	有物	増地	自傾人	侵耐耐
産土	土の	土土土	然	層分換	性態量	害理的	冠す	然斜為	水風
力	土の	土の風	水水潤	の性	石苦加	害質障	水ベリ	の傾傾	水風
可	の層	のの粘	肥肥定	塩基	灰土里	害の障	のの危	の傾傾	蝕蝕蝕
能	の礫	土着硬	沃	状豊	含	有害	の危	方	蝕蝕蝕
性	厚深	難性	性性度	力力態	量	無性	險險	斜向斜	度性性
等	ささ	量易	濕	度	否	性	度度	斜蝕	
級	tdgp	w	f	n	i	a	s	e	
	II II II II	2 2 1 (I)	1 1 (2)	I 1 2 1	I 1 2 1 2 1 2	II 1 2	I 1 1	II 2 --	I 1 1 1
簡略分級式 IItdgp (w) is									

A 土壤区の特徴

この土壤区は達美扇状統に属する。表土の厚さは20~25cmで中庸、有効土層は55cm以下でやや浅い。表土は礫を含む~富む中粒質で粘着性は中庸で耕起、碎土はやゝ困難を感じる。保水性は小さく、透水性は良好で過乾のおそれがある。

保肥力は大、磷酸固定力は小、土層の塩基状態は良好で自然肥沃度は高い。作土は弱酸性で養分含量は多いが、下層は磷酸含量が欠乏している。特殊な障害性は存在しない。地形的にみて侵蝕のおそれは少ない。

B 植生及び利用状況

畑地として利用され、豆類、麦類、てん菜等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

一部で石礫が多く、さらに有効土層が浅く過乾のおそれのあるところでは有機物の補給や深耕によつて地力培養を図る必要がある。

D 分布 津別町達美、最上の一部

記載責任者 秋山喜三郎 (北海道立北見農業試験場)

日付 昭和44年3月31日

二 又 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ18cm内外で腐植含量は3%内外、土性はLiCが主である。色は7.5YRで彩度3、明度4、未風化小～中角礫を含む。粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度1.5～1.8で疎、PH(H₂O)6.3前後、下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ20cm内外で腐植を欠き、土性はLiCが主である。色は7.5YRで彩度4、明度4、未風化小～中角礫に富む。粒状構造で発達程度は中度である。ち密度1.6～1.9で疎～中、PH(H₂O)6.0前後、下層との境界は明瞭である。

第3層は地表下概ね40cm内外で、未風化小～中角礫よりなる礫層。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 網走郡津別町二又 試坑66津17

第1層	0～18cm	腐植を含む褐(10YR4/3)のLiC、未風化小～中角礫を含む。発達弱度の粒状構造、ち密度1.7で疎、PH(H ₂ O)6.3、調査時の湿り乾、境界平坦明瞭。
第2層	18～40cm	腐植を欠く褐(7.5YR4/4)のLiC、未風化小～中礫に富む。発達中度の粒状構造、ち密度1.8で疎、PH(H ₂ O)6.0、調査時の湿り乾、境界明瞭。
第3層	40～	未風化小～中礫よりなる礫層。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重g	真比 重	全炭素%	全窒素%	炭素率	腐植%
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0～18	7.3		6.9	26.4	33.0	33.7	LiC	1.11	2.46	1.80	0.24	8	3.1
2	18～40	8.7		11.7	19.4	34.7	34.2	LiC	1.09	2.52	0.70	0.09	8	1.2

層位	PH		置換酸度 Y1	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g				塩基飽和度%	磷酸吸収係数	有効態磷酸 me/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O	Na ₂ O			
1	6.3	5.4	0.3	45.3	34.00	1.00	1.03	0.26	80.0	1.055	12.3
2	6.0	4.7	0.3	42.3	34.25	1.25	0.49	0.27	86	1.400	4.7

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては大高台統、木樋統、思根統、思根沢統等があるが、大高台統、木樋統、思根統は母材、堆積様式が異なり、思根沢統では表土の堆積様式、母材が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 変成岩、非固結水成岩（珪岩、砂岩）

A-4 堆積様式 水積（扇状堆土）

B 地形

丘陵地に連なる山裾斜面

C 気候

気候は一般に冷涼で夏期にはしばしばオホーツク海高気圧の影響を受けて低温に見まわれ、冷害を受けることがある。又山間地域では初霜も早い。年平均気温 6.7℃、年間降水量 706.8mm

D 植生及び利用状況

大部分畑地として利用され、豆類、麦類、てん菜等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

一部に石礫の多いところがあり、除石礫が必要であろう。また作土層は過乾のおそれがあるので有機物の補給に努めて保水性の増大と地力培養を図る必要がある。傾斜地であるので牧草帯の設置、緑作帯の設置、被覆作物の栽培など水蝕防止策の実施が必要であろう。

F 分布 津別町二又、恩根の一部

調査及び記載責任者 秋山喜三郎（北海道立北見農業試験場）
 年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
二又一二又	III d Pis II tg(w) e

② 土壌区別説明

二	又	一	二	又
---	---	---	---	---

示 性 分 級 式 (畑)

土	表	有	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵																								
生	効	土	表	表	透	保	固	置	有	地	自	侵																							
産	土	土	土	土	濕	然	層	換	微	冠	傾	耐																							
力	土	の	土	地	潤	肥	分	性	酸	す	斜	風																							
可	の	の	の	の	水	定	の	性	量	水	為	水																							
能	の	の	粘	乾	水	肥	の	性	要	り	の	蝕																							
性	厚	の	土	土	潤	定	基	性	要	の	傾	蝕																							
等	深	含	難	硬	沃	力	状	量	素	危	方	蝕																							
級	さ	さ	量	易	湿	度	否	性	度	險	斜	蝕																							
	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e																								
	III	II	III	III	3	3	2	(II)	1	1	(2)	I	1	2	1	I	1	2	1	1	1	1	III	1	3	I	1	1	III	3	--	II	2	2	1
簡略分級式	III d Pis II tg(w) e																																		

A 土壌区の特徴

この土壌区は二又統に属する。表土の厚さは18cm内外で中腐、有効土層は40cm以内で浅い。表土は礫を含み、細粒質で粘着性強く耕起、砕土は困難を感じる。透水性は良好で礫土層が浅いため過乾のおそれがある。

保肥力は大、固定力の中、土層の塩基状態は良好で、自然肥沃度は高い。作土の養分含量は多く、下層土も磷酸を除き多い。特殊の障害性は存在しない。地形が傾斜地であるため水蝕のおそれが多い。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、豆類、麦類、てん菜等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

一部石礫の多いところでは除石礫が必要である。また礫土層が浅いため過乾のおそれがあるので有機物の補給に努めて保水性の増大、地力培養を図る必要があろう。また傾斜地であるので牧草栽培、緑作帯の設置などの水蝕防止策の実施が必要であらう。

D 分 布 津別町二又、恩根の一部

記載責任者 秋 山 喜三郎 (北海道立北見農業試験場)
日 付 昭和44年3月31日

恩 根 決 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外で腐植含量は8%内外、土性はLが主である。色は10YRで彩度1、明度2、粒状構造で発達弱度である。ち密度12~15で疎、PH(H₂O) 6.1前後、下層との境界は平坦明瞭である。本層はMe-a層である。

第2層は厚さ15cm内外で腐植含量は8%内外、土性はLが主である。色は10YRで彩度1、明度2、細塊状構造で発達弱度である。ち密度19~22で中、PH(H₂O) 6.0前後、下層との境界は平坦明瞭である。本層はMe-b(?)層である。

第3層は厚さ25cm内外で腐植含量は5~6%、土性はCLが主である。色は10YRで彩度2、明度4、粒状構造で発達中度である。細孔含む。ち密度20~22で中、下層との境界は漸変である。

第4層は厚さ30cm内外で腐植を欠き、土性はCLが主である。色は10YRで彩度4、明度6、砂岩の半風化小礫にすこぶる富む。粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度18~20で中、下層との境界は平坦明瞭である。

第5層は地表下概ね90cm内外以下で腐植を欠き、土性はSが主である。色は10YRで彩度6、明度6、単粒構造、ち密度14~17で疎である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 網走郡津別町大沼 試坑尾津52C

第1層	0~20cm	腐植に富む黒(10YR2/1)のL、発達弱度の粒状構造、ち密度13で疎、PH(H ₂ O) 6.1、調査時の湿り乾、境界平坦明瞭、本層はMe-a層である。
第2層	20~35cm	腐植に富む黒(10YR2/1)のL、発達弱度の細塊状構造、ち密度20で中、PH(H ₂ O) 6.0、調査時の湿り乾、境界平坦明瞭、本層はMe-b(?)層である。
第3層	35~60cm	腐植に富む黄褐灰(10YR4/2)のCL、発達中度の粒状構造、細孔含む。ち密度21で中、調査時の湿り乾、境界漸変。
第4層	60~90cm	腐植を欠く灰黄橙(10YR6/4)のCL、半風化小礫にすこぶる富む。発達弱度の粒状構造、細孔含む。ち密度19で中、調査時の湿り乾、境界平坦明瞭。
第5層	90~	腐植を欠く明黄褐(10YR6/6)のS、単粒構造、ち密度16で疎、調査時の湿り半湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土 性	現地容積重 g	真 比 重	全炭素 %	全窒素 %	炭 素 率	腐 植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~20	4.1		6.2	39.8	40.5	13.5	L	73	2.31	5.05	0.45	11	8.7
2	20~35	3.8		5.5	46.8	36.8	10.9	L	75	2.29	4.58	0.44	10	7.9

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g				塩基飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O	Na ₂ O			
1	6.1	5.7	0.3	29.08	21.33	0.66	2.13	0.31	84.0	571	9.7
2	6.0	5.5	0.3	26.77	18.99	0.99	0.94	0.32	79	593	4.4

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては大高台統、達美統、恩根統、達美扇状統、共和統等があるが、大高台統、共和統は母材、堆積様式が異なり、達美統、恩根統は堆積様式が異なる。達美扇状統は表土の堆積様式、母材が異なるので本統と区別される

A-3 母 材 非固結火成岩/非固結水成岩(砂岩、凝灰岩)

A-4 堆積様式 風積(火山性)/水積(扇状堆土)

B 地 形

河川流域の段丘上の緩傾斜地

C 気 候

気候は一般に冷涼で夏期にはしばしばオホーツク海高気圧の影響を受けて低温に見まれ、冷害を受けることがある。又山間地域では初霜も早い。年平均気温 6.7℃、年間降水量

D 植生及び利用状況

大部分畑地として利用され、てん菜、豆類、馬鈴薯等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

地味肥沃で特に問題はない。

F 分 布 津別町大昭、美都、恩根、最上、本岐、相生の一部

調査及び記載責任者 秋 山 喜三郎 (北海道立北見農業試験場)
年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡略分級式
恩 根 沢 - 恩 根 沢	lt ds

② 土壌区別説明

恩 根 沢 一 恩 根 沢

示 性 分 級 式 (畑)

土	表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵																			
壤	効土	表表表	透保湿	保固土	置	有微酸	有物	增地	自傾人	侵耐																	
生	土	土土土	然	層分	換	効	害理	冠す	然斜為	水風																	
産	土	の	の	の	の	の	的	水	の	の																	
力	土	の	の	の	の	の	害	り	の	の																	
可	の	の	の	の	の	の	障	の	の	の																	
能	層	の	の	の	の	の	害	危	危	危																	
性	の	粘	水	水	潤	肥	質	險	險	險																	
厚	の	土	の	の	の	の	の	方	方	方																	
等	深	難	硬	乾	沃	状	有	斜	斜	斜																	
級	さ	量	湿	度	否	性	無	度	度	度																	
	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e																
	II	II	II	I	2	1	1	I	1	2	1	2	1	1	I	1	1	I	1	1	II	2	--	I	1	1	1
簡略分級式		IIt ds																									

A 土壤区の特徴

この土壤区は恩根沢統に属する。表土の厚さは20cm内外で中庸、有効土層は90cm内外でやゝ深い。表土は中粒質で粘着性は弱く耕起、碎土は容易である。保水性中庸、透水性良好で過乾、過湿のおそれは少ない。

保肥力は、大、磷酸固定力はごく小、土層の塩基状態は良好で、自然肥沃度は高い。作土の養分含量は多く、下層土も磷酸を除き同様な傾向である。特殊の障害性は存在しない。地形的にみて侵蝕のおそれは少ない。

B 植生及び利用状況

大部分畑地に利用され、てん菜、豆類、馬鈴薯等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

地味肥沃で特に問題はない。

D 分 布 津別町大昭、美都、恩根、最上、本枝、相生の一部

記載責任者 秋 山 喜三郎 (北海道立北見農業試験場)
日 付 昭和44年3月31日

活 汲 扇 状 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ25cm内外で腐植含量は7%内外、土性はCLが主である。色は10YRで彩度3、明度3、安山岩、砂岩の中礫を含む。粒状構造で発達程度は弱度である。ち密 13~17で疎、PH(H₂O) 5.8前後、下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ4cm内外で腐植を欠き、土性はSが主である。色は10YRで彩度2、明度7、単粒構造、ち密度19~22で中、下層との境界は平坦明瞭である。本層はMe-a₁、a₂層である。

第3層は地表下概ね29cm内外以下で腐植を欠き、土性はSLが主である。色は10YRで彩度2、明度7、未風化小礫に富む。均質構造で鉄、マンガンの酸化沈積物を含む。ち密度29~30で極密、PH(H₂O) 5.8前後。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 網走郡津別町活汲 試坑66津22N

第1層	0~25cm	腐植に富む暗褐(10YR3/3)のCL、安山岩、砂岩の中礫含む。発達弱度の粒状構造、ち密度15で疎、PH(H ₂ O)5.8、調査時の湿り乾、境界平坦明瞭。
第2層	25~29cm	腐植を欠く淡黄褐灰(10YR7/2)のS、単粒構造、ち密度21で中、調査時の湿り乾、境界平坦明瞭。本層はMe-a ₁ 、a ₂ 層である。
第3層	29~	腐植を欠く淡黄褐灰(10YR7/2)のL、小礫に富む。均質構造で、マンガン、鉄斑の酸化沈積物を含む。ち密度29~30で極密、PH(H ₂ O) 5.8、調査時の湿り半湿。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重 g	真比 重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植%
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~25	4.8		9.5	39.2	30.4	20.9	CL		-	4.17	0.45	9	7.2
3	29~	4.4		15.0	38.5	33.3	13.2	L		-	0.64	0.08	8	1.1

層位	PH		置換酸度 Y1	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g				塩基飽和度%	磷酸吸収係数	有効態磷酸 me/100g
	H O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O	Na ₂ O			
1	5.8	5.5	0.3	25.78	18.33	1.66	0.39	0.21	76	687	5.3
3	5.8	4.8	0.5	17.18	9.33	0.99	0.31	0.33	64	548	0.5

A-2 他の土壤統との関係

本統に隣接する土壤統としては活汲段丘統、達美統、活汲沢統等があるが、達美統は母材、堆積

様式が異なり、活汲段丘統は堆積様式が、活汲沢統は堆積様式と麦土の母材が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩（凝灰岩）

A-4 堆積様式 水積（扇状堆土）

B 地形

網走川右岸の低位段丘

C 気候

気候は一般に冷涼で夏期にはしばしばオホーツク海高気圧の影響を受けて低温に見まわれ、冷害を受けることがある。又山間地域では初霜も早い。年平均気温 6.7℃、年間降水量 706.8mm。

D 植生及び利用状況

大部分畑として利用されているが、一部水田としても利用されている。豆類、てん菜、水稻等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

本統は地表下 30cm 以内より固結盤状層（不透水層）となり排水悪く、作物根の伸長も不良となっている。排水の実施や心土破砕を行なうよう心がけるべきである。また有効土層が浅いので有機物を施用しながら深耕して根圏の拡大と地力培養を図るべきであろう。

F 分布 津別町活汲の一部

調査及び記載責任者

秋山喜三郎（北海道立北見農業試験場）

年 月 日

昭和 44 年 3 月 31 日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
活汲扇状-活汲扇状	III di II tgpwn

② 土壌区別説明

津 別 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外で腐植含量は14%内外、土性はLiCが主である。色は10YRで彩度1明度2、粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度13~17で疎、PH(H₂O)5.2前後、下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ7cm内外で2層に分化している。上部層は厚さ3cm内外で腐植含量10%以上、土性はCLが主である。色は10YRで彩度1、明度1、粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度15~18で疎、下層との境界は明瞭である。下部層は厚さ4cm内外で腐植を欠き、土性はSが主である。色は10YRで彩度3、明度7、単粒構造、ち密度18~20で中、下層との境界は平坦明瞭である。本層はMe-b(?)層である。

第3層は厚さ13cm内外で腐植土である。色は10YRで彩度1、明度1、粒状構造で発達程度は弱度である。糸根状の酸化沈積物を含む。ち密度12~13で疎、PH(H₂O)4.7前後、下層との境界は漸変である。

第4層は厚さ15cm内外でヨシを多く含む亜泥炭、土性はLiCが主である。色は10YRで彩度4明度3、ち密度12~13で疎、PH(H₂O)5.8前後である。

第5層は厚さ15cm内外でヨシを主たる構成植物とする低位泥炭。色は10YRで彩度1、明度1分解良好である。ち密度13~15で疎。

第6層は地表下概ね70cm以下で腐植を欠き、土性はCが主である。色は2.5Yで彩度0、明度6均質連結状構造、ち密度20で中。

代表的断面形態

(所在地) 網走郡津別町津別 試坑6津44

第1層	0~20cm	腐植に頗る富む黒(10YR2/1)のLiC、発達弱度の粒状構造、ち密度15で疎、PH(H ₂ O)5.2、調査時の湿り半湿、境界平坦明瞭。
第2層	20~27cm	本層は2層に分化、上部層(3cm)は腐植に頗る富む黒(10YR1/1)のCL、発達弱度の粒状構造、ち密度16で疎、調査時の湿り半湿、境界明瞭である。下部層(4cm)は腐植を欠く灰黄橙(10YR7/3)のS、単粒構造、ち密度19で中、調査時の湿り半湿、境界平坦明瞭、本層はMe-b(?)層である。
第3層	27~40cm	黒(10YR1/1)の腐植土、発達弱度の粒状構造、糸根状の酸化沈積物含む。ち密度13で疎、PH(H ₂ O)4.7、調査時の湿り湿、境界漸変。
第4層	40~55cm	ヨシ泥炭を多く含む亜泥炭層、暗褐(10YR3/4)、PH(H ₂ O)5.8、調査時の湿り湿。
第5層	55~70cm	ヨシを主たる構成植物とする低位泥炭、黒(10YR1/1)、ち密度14で疎調査時の湿り湿。
第6層	70~	腐植を欠く灰(2.5Y6/0)のC、均質連結状構造、ち密度20で中、調査時の湿り湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成%				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~20	7.5		3.8	32.1	33.5	30.6	LiC	73	2.14	8.41	0.75	11	14.5
3	27~40	15.0		2.5	20.0	69.8	7.7	SiL	32	1.78	13.69	1.07	13	23.6
4	40~55	7.4		3.3	35.6	33.4	27.7	LiC	53	2.25	7.48	0.77	10	12.9

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g				塩基飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O	Na ₂ O			
1	5.2	4.4	2.0	39.66	16.33	0.33	0.23	0.31	43	1,287	2.1
3	4.7	4.0	9.0	56.35	10.00	1.00	0.15	0.50	21	1,684	0.7
4	5.8	5.1	0.4	36.48	23.99	1.14	0.64	0.19	71	1,016	4.2

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては東達美統、達美統、共和統等があるが、達美統は母材、堆積様式が異なり、東達美、共和統は表土の母材、堆積様式は同じであるが下層土の母材、堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩/集積(ヨシ)、非固結水成岩

A-4 堆積様式 風積(火山性)/集積、水積

B 地形 網走川流域の低地

C 気候

気候は一般に冷涼で夏期にはしばしばオホーツク海高気圧の影響を受けて、低温に見まわれ、冷害を受けることがある。又山間地域では初霜も早い。年平均気温6.7℃、年間降水量706.8mm。

D 植生及び利用状況

畑地および水田として利用されている。豆類、てん菜、水稻等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

過湿地であり排水を充分施行することが必要であろう。また強酸性を呈するので酸性矯正の実施や加里、磷酸含量が少ないので、これら要素の補給に努める必要がある。また全窒素含量が多いので、土壌中よりの窒素供給が多いと思われる。従つて窒素質肥料はひかえ目に施すことも必要であろう。

F 分布 津別町津別の一部

調査及び記載責任者 秋山喜三郎 (北海道北見農業試験場)

年月日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
津別-津別	U ₁ p ₁ w ₁ U ₂ t ₂ d ₂ f ₂ n ₂ a

② 土壌区別説明

津 別 一 津 別

示 性 分 級 式 (畑)

土	壤	表	有	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵																									
生	効	土	表	表	表	透	保	固	置	有	微	酸																									
産	土	土	粘	土	土	地	然	層	分	換	効	効																									
力	土	の	土	の	土	の	風	の	性	態	量	量																									
可	の	層	の	粘	土	の	水	水	潤	肥	定	塩																									
能	の	礫	の	土	着	の	乾	沃	状	豊	含	量																									
性	厚	含	難	性	性	さ	性	性	度	力	態	量																									
等	深	性	性	さ	性	性	度	力	態	量	素	度																									
級	さ	量	易	湿	度	否	性	性	斜	性	斜	性																									
	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e																										
Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅲ	3	3	2	Ⅲ	2	2	3	Ⅱ	1	3	3	Ⅱ	1	2	2	2	1	1	Ⅰ	1	1	Ⅱ	1	1	Ⅱ	2	1	Ⅰ	1	--	Ⅰ	1	1	1
簡略分級式 Ⅲpw Ⅱtdfna																																					

A 土壤区の特徴

この土壤区は津別土壤統に属する。作土の厚さは20cm内外で中庸、有効土層は70cm内外で中庸である。表土の土性は細粒質で粘着性強く耕起、砕土は困難を感じる。地下水位が高く過湿地である。

保肥力は大、磷酸固定力は小～中、土層の塩基状態は不良で自然肥沃度は低い。全般的に磷酸、加里含量が特に少ない傾向がある。特殊な障害性は存在しないが、湿害を受けるおそれが多い。

B 植生及び利用状況

畑地および水田として利用され、豆類、てん菜、水稻等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

過湿地なので排水を充分施行すること。また土壤改良（酸性矯正及び磷酸質資材の施用）を実施し、加里質肥料も充分施用する必要もあろう。その他滞在窒素が多いので窒素質肥料は控え目に施用するよう心がける必要がある

D 分 布 津別町津別の一部

記載責任者 秋 山 喜三郎 (北海道立北見農業試験場)

日 付 昭和44年3月31日

3、保全対策地区区分及び説明

1) 保全対策地区の設定

土壌断面の特徴及び対策等を考慮して、次の8保全対策区を設定した。

保全対策地区名	該当土壌区	面積 (ha)	主な特徴	主要な保全対策
本 岐	本 岐-本 岐 東 岡 南-東 岡 南 二 又-二 又	388	水蝕を受けやすい 礫層が浅い 石礫が多い	侵 蝕 防 止 深 耕 有機物施用 除 石
大 高 台	大 高 台-大 高 台 東 岡-東 岡	2.132	風水蝕を受けやすい 磷酸に乏しい 銅欠乏症が見られる	侵 蝕 防 止 施 肥 の 合 理 化 有機物施用 銅 剤 の 施 用
活 汲 段 丘	高台段丘-高台段丘 活 汲 〃 -活 汲 〃 東 達 美-東 達 美 恩 根 沢-恩 根 沢	1.153	磷酸に乏しい傾向がある 排 水 中 庸	有機物施用 施 肥 の 合 理 化
達 美	岩 富-岩 富 木 樋-木 樋 相 生-相 生 達 美-達 美 恩 根-恩 根	1.128	排 水 中 庸 腐植含量少ない	有機物施用
最 上	最 上-最 上 達美扇状-達美扇上	194	礫層が浅い 過干のおそれがある	有機物施用 深 耕
共 和	共 和-共 和 美 都-美 都 活汲扇状-活汲扇状	830	過湿のおそれがある 盤層がある	排 水 心土破碎 有機物施用
大 昭	大 昭-大 昭 活 汲 決-活 汲 決	124	過湿のおそれがある 腐植が少ない	排 水 有機物施用
津 別	津 別-津 別 西 達 美-西 達 美	55	排 水 不 良 腐植層(泥炭層)が厚い	排 水 酸 性 改 良

2) 保全対策地区別説明

畑

< 本 岐 保 全 対 策 地 区 >

(1) 分 布 状 況

郡市町村名	面積 (ha)	備 考 (該当土壌区)
網 走 郡 津 別 町	388	本 岐-本 岐、二 又-二 又 東 岡 南-東 岡 南

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

急傾斜地で土壌侵蝕を受けやすく地力低下を来しやすい。また石礫が多く耕耘の際の障害となり、更に礫層が浅い。作土の養分含量は中庸である。

② 営農の方向、その他

有機物補給、侵蝕防止に主眼を置いた経営が望ましい。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実 施 方 法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等	備 考
侵蝕防止	本 岐-本 岐 東 岡 南-東 岡 南 二 又-二 又	緑作帯の設置 牧草の作付	指導の徹底	
有機物施用	同 上	堆厩肥、緑肥の施用、牧草作付	畜産の振興	
深 耕	同 上	25cm内外まで深める		
除 石 礫	同 上	耕耘の障害となるのを除石礫		

② そ の 他

< 大 高 台 保 全 対 策 地 区 >

(1) 分 布 状 況

郡市町村名	面積 (ha)	備 考 (該当土壌区)
網 走 郡 津 別 町	2,132	大 高 台-大 高 台、東 岡-東 岡

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

軽石風化物を母材とする土壌で耐侵蝕性に乏しい。その上地形は波状性緩傾斜地が多いため風：水蝕を受けやすい。塩基置換容量は大きい、養分分の溶脱が起り易い傾向を有し、有効態磷酸含

量は少ない。また銅欠乏症が見られ、麦類の収量は低い。

② 営農の方向、その他

有機物の補給が容易であるような経営が望ましい。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等	備考
侵蝕防止	大高台-大高台 東岡-東岡	牧草の作付 緑作帯の設置 等高線栽培	指導の徹底	
施肥の合理化	同 上	磷肥の増施	深耕時には磷肥資材を投入する。	
有機物施用	同 上	堆肥、緑肥の増施 牧草栽培	畜産の振興	
銅剤の施用	同 上	硫酸銅を2~4 Kg/10aを施用	麦類に施用	

② その他

< 活汲段丘保全対策地区 >

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備考 (該当土壌区)
網走郡津別町	1,153	高台段丘-高台段丘、東達美-東達美 活汲段丘-活汲段丘、恩根沢-恩根沢

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

浮石質軽石風化物を母材とする土壌であるため、塩基置換容量が大きい。養分分の溶脱が起り易い傾向がある。また磷含量が乏しい傾向がある。その他塩基類、養分含量は高いが、常に地力維持、増進に努める必要がある。侵蝕は地形的に起り難い。

② 営農の方向、その他

地力維持増進が可能であるような輪作式を確立した経営が望ましい。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等	備考
有機物施用	高台段丘-高台段丘 活汲"-活汲" 東達美-東達美 恩根沢-恩根沢	堆肥の施用 緑肥の施用 牧草の栽培	指導の徹底 輪作の導入	
施肥の合理化	同上	磷酸の増施	深耕時に磷酸質資材を投入する。	

② その他

< 達美保全対策区 >

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備考 (該当土壌区)
網走郡津別町	1.128	岩富-岩富、達美-達美 木樋-木樋、恩根-恩根 相生-相生

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

土層は膨軟で透水性は良好である。また塩基置換容量は大で、置換性塩基類も多く、養分も多い。一部に腐植含量の少ない土壌区もある。

② 営農の方向、その他

土壌の性状より見て、有機物補給が可能なような輪作体系を取り入れた経営をするのが望ましい。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等	備考
有機物施用	岩富-岩富 木樋-木樋 相生-相生 達美-達美 恩根-恩根	堆肥の施用 緑肥の施用 牧草の作付	輪作の導入 指導の徹底	

② その他

局部的に石礫の多い処は除石礫をする必要がある。

< 最上保全対策区 >

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備考 (該当土壌区)
網走郡津別町	194	最上-最上、達美扇状-達美扇状

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

礫質な土壌で耕耘の障害となり、有効土層が浅く、礫層が浅く出現する。このため一時的な過乾の恐れがある。塩基、養肥分含量は多い。

② 営農の方向、その他

礫が多く耕耘の障害となるところは牧草への作付転換を図り、更に有機物の施用が可能なような輪作式の導入、経営にするのが望ましい。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等	備考
有機物施用	最上-最上 達美扇状-達美扇状	堆厩肥の施用 緑肥の施用 牧草の作付	指導の徹底 輪作の導入	
深耕	同上	25cm位まで深耕すること。		

② その他

石礫の特に多いところでは放牧地として利用するのが望ましい。

< 共和保全対策区 >

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備考 (該当土壌区)
網走郡津別町	830	共和-共和、活汲扇状-活汲扇状 美都-美都

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

低い平坦な台地に分布し、下層に固結盤層が存在し透水性が悪く、時期的に湿性を呈する。置換容量は大きく塩基含量、養肥分も比較的多いが、有効態磷酸含量は少ない。

② 営農の方向、その他

地力維持を図るための有機物補給が容易であるような主畜経営が望ましいが、畑作経営の場合は輪作体系をとり入れて行くのが望ましい。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等	備考
排水	共和-共和 美都-美都 活汲扇状-活汲扇状	明渠、暗渠排水の実施	素焼土管、塩化ビニールパイプ等工事費の助成	
心土破砕	同上	バンブレーカーによる心土破砕	大型トラクターの導入または貸付、工事費の一部助成	盤層が50cm以下では効果は低い
有機物施用	同上	堆厩肥の施用 緑肥の施用	畜産の振興 輪作式の導入	

< 大昭保全対策地区 >

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備考 (該当土壌区)
網走郡津別町	124	大昭-大昭、活汲沢-活汲沢

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

土層は膨軟であるが、地下水位が高く過湿である。また有機物含量も少なく地力は中庸である。塩基にはやゝ富むが、砂質土で肥力は小である。

② 営農の方向、その他

有機物の補給が容易な経営、輪作式を導入すべきである。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等	備考
排水	大昭-大昭 活汲沢-活汲沢	明渠、暗渠排水の実施	素焼土管、塩ビ管等の工事費の助成	
有機物施用	同上	堆厩肥、緑肥の施用	指導の徹底 輪作式の導入	

< 津 別 保 全 対 策 地 区 >

(1) 分 布 状 況

郡 市 町 村 名	面 積 (h a)	備 考 (該 当 土 壤 区)
網 走 郡 津 別 町	5 5	津 別 - 津 別 、 西 達 美 - 西 達 美

(2) 保 全 対 策 地 区 の 特 徴 と 地 力 保 全 上 の 問 題 点

① 特 徴 と 問 題 点

腐植含量高く、地下水位の高い過湿地である。また強酸性を呈する。塩基置換容量は大きい、塩基、磷酸含量はやゝ少ない。全窒素含量は多い。

② 営 農 の 方 向 、 そ の 他

有機物導入が可能なような輪作式の確立が可能な経営

(3) 地 力 保 全 対 策

① 地 力 保 全 対 策

対 策 の 種 類	対 象 地 及 び 対 象 面 積	実 施 の 方 法	対 策 資 材 及 び 機 械 器 具 の 種 類 、 型 式 、 数 量 等	備 考
排 水	津 別 - 津 別 西 達 美 - 西 達 美	明 渠 、 暗 渠 排 水 の 実 施	素 焼 土 管 、 塩 ビ 管 等 の 資 材 、 工 事 費 の 助 成	
酸 性 改 良	同 上	所 要 量 の 施 用 炭 カ ル で 施 用	資 材 購 入 費 の 助 成	

2) 土 壤 分 析 成 績

保 全 对 策 区	土 壤 区	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学 性										現地におけ 100cc			
					礫 (風 乾 物 中) %	風 細 土 乾 中		細 土 無 機 物 中					土 性	容 積 重 g	固 相 容 積 cc	水 分 容 積 cc		
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シ ル ト %	粘 土 %						
本 岐	木 岐 14	津	1	0~15		3.8	12.5					9.1						
			2	15~45		4.3	3.0					15.0						
	東 岡 南 1	津	1	0~18		5.3	6.2	19.2	41.1	60.3	34.0	5.7	L	74	27	27		
			2	18~35		6.6	2.5	24.6	34.0	58.6	32.6	8.8	L	106	38	35		
	岐 又 17	津	1	0~18		7.3	3.1	6.9	26.4	33.3	33.0	33.7	LiC	111	42	30		
			2	18~40		8.7	1.2	11.7	19.4	31.1	34.7	34.2	LiC	109	38	37		
大 高 台	大 高 台 6B	津	1	0~19		9.0	9.0	2.5	43.3	45.8	44.2	10.1	L	65	25	41		
			3	23~35		6.6	5.3	8.0	43.8	51.8	29.9	18.3	CL	79	30	40		
			4	35~50		7.9	2.6	13.4	34.3	47.7	30.5	21.9	CL	94	33	41		
			5	50~70		4.0	0.6	33.4	33.4	66.8	21.1	12.1	L	—	—	—		
	東 岡 5	津	1	0~17		8.1	8.4	14.3	42.9	57.2	35.8	7.0	FSL	67	26	42		
			2	17~30		12.5	7.6	11.9	50.5	62.4	33.6	4.0	L	74	28	46		
			3	30~50		11.4	3.4	10.3	55.7	66.0	25.3	8.7	FSL	84	31	46		
			4	50~		10.2	1.1	13.9	31.2	45.1	43.4	11.5	L	111	38	47		
活 汲 段 丘	高 台 段 丘 9	津	1	0~22		4.9	6.5	5.2	49.4	54.6	31.6	16.0	CL	86	34	47		
			2	22~37		8.5	2.3	9.2	50.0	59.2	28.1	12.6	L	95	33	50		
			3	37~65		6.7	0.9	18.3	37.6	55.9	28.7	15.4	CL	122	43	38		
	活 汲 段 丘 10	津	1	0~18		5.0	6.7	7.7	37.4	45.1	26.5	16.5	CL	82	32	32		
			2	18~30		9.1	5.9	6.7	35.3	42.0	37.7	20.3	CL	95	35	32		
			3	30~58		6.7	2.3	3.7	26.6	30.3	28.0	41.7	LiC	118	43	39		
			4	58~75		8.8	1.4	7.4	30.0	37.4	35.7	26.9	LiC	116	41	44		
	東 達 美 丘 22P	津	1	0~28		4.5	7.7	18.6	34.9	53.5	28.7	17.8	CL	77	31	32		
			2	28~40		7.5	4.9	39.3	24.7	64.0	19.0	17.0	SCL	92	32	34		
			3	40~60		4.2	1.3	75.0	12.0	87.0	4.2	8.8	LCS	107	38	30		
	恩 根 沢 52C	津	1	0~20		4.1	8.7	6.2	39.8	46.0	40.5	13.5	L	73	29	40		
			2	20~35		3.8	7.9	5.5	46.8	52.3	36.8	10.9	L	75	30	42		

物理化学性 容 中		化 学 性												
		PH		置 換 酸 度 Y ₁	有 機 物			塩 基 置 換 容 量 Me/ 100g	置換性塩基 me/100g			塩 基 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 数	有 効 態 磷 酸 mg/ 100g
		H ₂ O	Kccl		T-C %	T-N %	C/N		CaO	MgO	K ₂ O			
		6.2	5.8	0.1	7.30	0.41	18	3.22	24.24	1.39		80	956	
		4.8	3.7	2.0	1.70	0.15	12	25.7	10.73	3.66		58	729	
46	73	5.7	5.2	0.5	3.60	0.34	11	23.51	14.50	0.75	0.54	68	764	1.9
27	62	6.0	5.2	0.3	1.45	0.16	9	18.81	13.00	3.75	0.35	92	881	0.3
28	58	6.3	5.4	0.3	1.80	0.24	8	45.30	34.00	1.00	1.03	80	1,055	12.3
25	72	6.0	4.7	0.3	0.70	0.09		42.29	34.25	0.49	0.49	86	1,400	4.7
34	75	6.1	5.9	0.3	5.80	0.51	10	30.3	25.99	0.28	0.41	88	635	3.3
30	70	5.7	4.9	0.8	3.07	0.32	10	24.3	11.75	1.00	0.92	57	1,055	0.1
26	67	5.8	4.8	0.8	1.51	0.20	8	22.0	10.62	4.62	1.50	77	1,067	0.2
—	—	6.1	4.8	0.5	0.35	0.04	9	9.6	4.85	2.57	0.46	89	442	Tr
32	74	7.2	6.7	0.3	4.87	0.51	10	35.03	39.66	1.75	1.88	124	1,287	1.0
26	72	5.9	5.4	0.5	4.41	0.41	11	36.13	21.00	0.75	1.65	66	1,818	0.5
23	69	5.8	5.1	0.5	1.97	0.20	10	26.97	14.00	1.75	1.49	67	1,779	0.2
15	62	6.2	5.4	0.3	0.64	0.06		17.84	11.83	0.83	0.51	79	781	0.1
19	66	6.6	6.6	0.3	3.77	0.34	11	25.12	25.66	0.49	0.91	108	794	2.0
17	67	5.8	5.0	0.5	1.33	0.19	7	17.32	10.75	0.75	0.93	75	1,477	Tr
19	57	6.0	5.2	0.3	0.52	0.04		14.42	10.28	2.28	0.31	92	618	#
36	68	6.6	6.4	0.3	3.89	0.42	9	33.09	30.56	0.57	1.13	98	779	4.0
33	65	6.2	5.7	0.3	3.42	0.29	12	35.88	28.00	3.25	1.13	92	1,324	3.3
18	57	6.3	5.7	0.3	1.33	0.15	9	26.23	19.00	0.50	0.56	78	991	0.6
15	59	6.3	5.7	0.3	0.81	0.09		22.02	14.75	0.25	0.23	88	903	Tr
37	69	5.7	4.9	0.6	4.47	0.46	10	23.76	12.75	0.75	0.84	61	903	2.3
34	68	5.9	5.0	0.5	2.84	0.28	10	26.23	14.50	1.50	0.42	62	1,297	0.1
32	62	6.0	4.9	0.6	0.75	0.06		14.10	8.00	0.25	0.69	66	693	1.7
31	71	6.1	5.7	0.3	5.05	0.45	11	29.08	21.33	0.66	2.13	84	571	9.7
28	70	6.0	5.5	0.3	4.58	0.44	10	26.77	18.99	0.99	0.94	79	593	4.4

2) 土 壤 分 析 成 績

保 全 对 策 区	土 壤 区	地 点 第 号	層 位	深 さ cm	礫 (風乾物中) %	理 学 性							現地における 100cc			
						風 乾 細 土 中		細 土 無 機 物 中					土 性	容 積 重 %	固 相 容 積 cc	水 分 容 積 cc
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シ ル ト %	粘 土 %				
岩 富	津 35D	1	0~20	5.7	6.9	5.2	41.3	46.5	27.8	25.7	LiC	72	29	35		
		3	25~50	7.3	3.4	1.3	41.4	42.7	31.4	25.9	LiC	93	34	40		
		4	50~	6.0	1.2	1.4	51.6	53.0	24.7	22.3	CL	108	38	39		
達 美	木 樋 37B	1	0~22	5.2	6.6	3.7	42.9	46.6	31.5	21.9	CL	70	28	41		
		2	22~38	6.6	1.8	3.4	42.1	45.5	26.8	27.7	LiC	107	38	40		
	相 生 29	1	0~25	2.5	7.2	9.6	47.3	56.9	35.8	7.3	L	87	24	42		
		3	33~48	4.3	4.7	21.9	37.9	59.8	23.0	17.2	CL	86	23	39		
美 根	津 36B	1	0~22	3.9	1.8	9.2	58.2	67.4	8.4	24.2	SCL	97	36	34		
		3	26~60	5.2	1.1	2.4	69.8	72.2	10.2	17.6	SCL	93	34	41		
		恩 根	1	0~22	3.5	2.9	6.0	47.3	53.3	25.3	21.4	CL	99	39	46	
最 上	津 37H	2	22~30	6.1	2.3	4.8	41.9	46.7	25.3	28.0	LiC	92	36	41		
		3	30~45	5.3	1.7	4.3	42.0	46.3	26.1	27.6	LiC	107	39	40		
		最 上	1	0~18	3.8	3.2	16.4	47.5	63.9	12.8	23.2	SCL				
共 和	津 36	2	18~35	5.0	1.5	14.5	51.9	66.4	14.7	18.9	SCL					
		達 美 扇 状 51	1	0~20	7.0	7.4	4.8	40.3	45.1	29.1	25.8	CL	83	31	37	
		3	30~55	5.6	1.2	2.3	40.9	43.2	36.3	20.5	CL	95	34	39		
共 和	津 36	1	0~20	4.7	6.8	10.1	43.2	53.3	33.4	13.3	L	83	34	48		
		2	20~35	5.9	5.6	21.2	44.2	65.4	25.1	9.5	FSL	81	32	52		
		3	35~55	6.1	1.5	9.7	30.3	40.0	31.0	28.8	LiC	99	37	47		
		4	55~	6.1	0.9	21.6	31.3	52.9	22.5	24.6	CL					
美 都	津 36B	1	0~16	2.7	5.0	21.5	40.1	61.6	21.6	16.8	CL					
		2	16~29	1.3	0.8	58.0	27.3	85.3	3.9	10.8	LCS					
活 汲 扇 状	津 22N	1	0~25	4.8	7.2	9.5	39.2	48.7	30.4	20.9	CL					
		3	29~	4.4	1.1	15.0	38.5	53.5	33.3	13.2	L					
大 昭	津 55	1	0~20	3.8	4.5	2.1	37.8	39.9	41.3	18.8	CL	73	29	37		
		2	20~36	1.3	1.3	4.7	53.9	58.6	39.1	2.8	L	85	34	46		
		3	36~0	6.5	1.9	7.8	35.5	43.3	34.5	22.2	CL	87	29	44		
活 汲 沉	津 30	1	0~25	2.8	2.6	22.3	54.8	77.1	11.6	11.3	FSL					
		2	25~45	1.5	0.4	35.3	47.6	82.9	7.4	9.7	FSL					

物理化学性 容 中		化 学 性													
		PH		置 換 酸 度 Y ₁	有 機 物			塩 基 置 換 容 量 me/ 100g	置換性塩基 me/100g			塩 基 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 数	有 効 態 磷 酸 mg/ 100g	
		H ₂ O	KCl		T-C %	T-N %	C/N		CaO	MgO	K ₂ O				
36	71	5.9	5.4	0.4	4.00	0.49	8	34.70	24.16	0.66	3.55	83	853	12.4	
26	66	5.4	4.7	0.8	1.97	0.25	8	27.96	18.12	0.37	1.40	73	867	0.4	
23	62	5.6	4.6	0.8	0.70	0.22	-	24.04	16.57	2.57	2.19	90	701	0.4	
31	72	5.5	4.7	1.0	3.83	0.40	10	29.74	16.33	2.33	1.71	69	923	2.4	
22	62	5.4	4.3	2.0	1.04	0.13	8	27.96	17.50	3.25	1.57	81	942	0.5	
34	76	5.7	5.3	0.4	4.18	0.38	11	22.14	17.60	0.33	0.51	81	564	9.9	
28	67	5.8	5.3	0.3	2.73	0.34	8	18.56	13.87	0.50	0.31	81	635	3.6	
30	64	5.8	4.8	0.5	1.04	0.15	7	25.24	17.75	1.00	1.87	83	618	9.4	
25	66	6.4	5.5	0.3	0.64	0.09		31.43	15.00	0.75	13.50	94	788	4.8	
15	61	6.3	5.5	0.3	1.68	0.21	8	18.84	13.33	3.99	0.94	100	564	7.5	
23	64	5.8	5.1	0.5	1.33	0.22	6	22.02	15.37	0.62	0.64	77	732	1.5	
21	61	5.8	4.9	0.5	0.99	0.15		20.79	13.00	3.50	0.62	84	618	1.0	
		5.9	5.0	0.5	1.85	0.25	7	22.8	17.50	2.50	0.41	90	618	8.8	
		6.1	5.0	0.3	0.87	0.10	9	21.8	19.25	0.75	0.35	94	764	0.5	
32	69	5.9	4.9	0.6	4.29	0.43	10	25.74	24.33	0.66	3.65	114	739	7.7	
27	66	5.8	4.7	0.8	0.70	0.12		26.58	14.28	1.42	6.77	86	701	0.9	
18	66	5.9	5.1	0.5	3.94	0.43	9	20.49	13.99	0.33	0.56	56	701	3.4	
16	68	6.0	5.0	0.5	3.25	0.31	10	19.05	10.50	0.75	0.31	61	978	Tr	
16	63	5.8	4.9	0.5	0.87	0.13	7	16.19	9.99	3.33	0.43	88	765	0.3	
		6.1	4.9	0.5	0.52	0.08		15.20	7.99	1.99	0.55	72	564	0.9	
		5.7	5.1	0.5	2.90	0.26	11	15.86	9.33	5.16	0.77	98	488	12.9	
		6.0	5.1	0.4	0.46	0.09	9	7.52	4.30	0.70	0.82	82	252	7.7	
		5.8	5.5	0.3	4.17	0.45	9	25.78	18.33	1.66	0.39	76	687	5.3	
		5.8	4.8	0.5	0.64	0.08	8	17.18	9.33	0.99	0.31	64	548	0.5	
34	71	5.4	4.3	3.0	2.61	0.28	9	19.83	9.66	1.66	0.58	62	586	4.1	
20	66	6.2	5.3	0.3	0.75	0.09	8	5.94	2.83	1.83	0.12	84	548	4.4	
27	71	5.9	5.2	0.3	1.10	0.15	7	23.51	15.50	0.25	0.79	72	1,116	Tr	
		6.9	6.5	0.3	1.51	0.18	8	17.57	16.62	0.50	0.67	104	578	7.9	
		5.8	4.5	1.0	0.23	0.18		9.10	6.25	1.25	0.54	92	488	0.3	

2) 土壤分析成績

保全 対策 区	土 壤 区	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学 性											
					濕 (風 乾 物 中) %	風 乾 土 中		細 土 無 機 物 中					土 性	現地における 100cc		
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シ ル ト %	粘 土 %		容 積 重 g	固 相 容 積 cc	水 分 容 積 cc
津 西 達 美 別 別	津 51B		1	0~17	5.4	3.4	10.8	36.1	46.9	33.7	19.4	CL	63	28	51	
			3	24~35	13.1	22.4	6.4	6.7	13.1	40.9	46.0	HC	41	18	58	
			6	55~	6.1	1.8	1.9	16.3	18.2	42.0	39.8	LiC	104	37	55	
	津 44		1	0~20	7.5	14.5	3.8	32.1	35.9	33.5	30.6	LiC	73	31	26	
			3	27~40	15.0	23.6	2.5	20.0	22.5	69.8	7.7	SiL	32	17	72	
			4	40~55	7.4	12.9	3.3	35.6	38.9	33.4	27.7	LiC	53	21	71	

		化 学 性												
る理学性 容 中		PH		置 換 酸 度 Y ₁	有 機 物			塩 基 置 換 容 量 me/ 100g	置換性塩基 me/100g			塩 基 飽 和 度 %	燐 酸 吸 收 係 数	有 効 態 磷 酸 mg / 100g
空 氣 容 積 cc	孔 隙 率 %	H ₂ O	Kcl		T-C %	T-N %	C/N		CaO	MgO	K ₂ O			
21	72	6.0	5.1	0.3	1.97	0.27	7	23.01	15.00	2.25	1.77	84	853	0.7
24	82	4.9	4.0	7.0	12.99	1.02	13	81.32	25.20	2.00	0.31	34	1925	0.3
8	63	5.2	3.9	5.5	1.04	0.10	10	29.03	18.33	0.33	0.68	70	756	0.2
43	69	5.2	4.4	2.0	8.41	0.75	11	39.66	16.33	0.33	0.23	43	1287	2.1
11	83	4.7	4.0	9.0	13.69	1.07	13	56.35	10.00	1.00	0.15	21	1684	0.7
8	79	5.8	5.1	0.4	7.48	0.77	10	36.48	23.99	1.14	0.64	71	1016	4.2